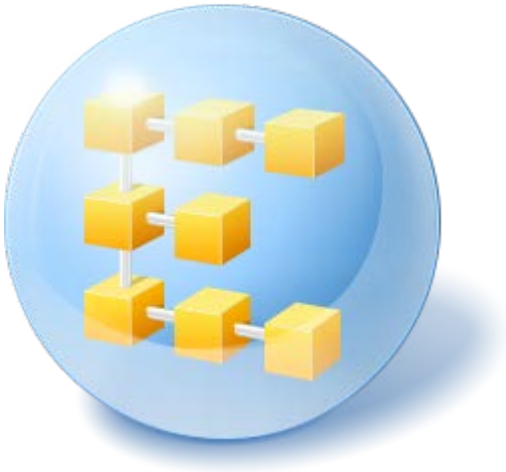
Acronis
COMPUTE WITH CONFIDENCE
WWW.ACRONIS.CO.JP



Acronis® Backup & Recovery ™ 10 Advanced Server Virtual Edition

Update 5

インストール ガイド

目次

1 インストールの前に 4

1.1 Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネント 4

1.1.1 エージェント for Windows 4
1.1.2 エージェント for Linux 6
1.1.3 エージェント for ESX/ESXi 6
1.1.4 集中管理用のコンポーネント 6
1.1.5 管理コンソール 9
1.1.6 ブータブル メディア ビルダ 9
1.1.7 Acronis Wake-On-LAN プロキシ 10

1.2 サポートされるオペレーティング システム 10

1.3 システム要件 13

1.4 ライセンス ポリシー 14

1.5 Acronis ライセンス サーバーの使用 15

2 Acronis Backup & Recovery 10 のインストール 18

2.1 ローカル インストール（Windows) 18

2.1.1 準備 18
2.1.2 インストール手順 18
2.1.3 Acronis サービスのログイン情報の指定 19
2.1.4 Microsoft SQL サーバーの指定 20
2.1.5 管理サーバーへのコンポーネントの登録 21
2.1.6 リモートから接続できるユーザーの指定 21
2.1.7 アップデート 21

2.2 リモート インストール（Windows） 22

2.3 Windows での無人インストール 24

2.4 コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ 25

2.5 グループ ポリシーを使用したエージェントのインストール 28

2.5.1 エージェントの配置の準備 28
2.5.2 グループ ポリシー オブジェクトの設定 29

2.6 Linux でのインストール 31

2.6.1 準備 31
2.6.2 対話型モードでのインストール 31
2.6.3 無人モードでのインストール 32
2.6.4 コマンドライン パラメータ 33

2.7 エージェント for ESX/ESXi のインストール 35

2.7.1 ESX/ESXi 仮想アプライアンスのインストール 36
2.7.2 ESX/ESXi 仮想アプライアンスの更新 38

3 試用版から製品版へのアップグレード 41

3.1 ライセンスの変更 41

3.2 Windows 用コンポーネントのアップグレード 42

3.3 Linux 用コンポーネントのアップグレード 43

3.4 エージェント for ESX/ESXi のアップグレード 43

4 Acronis Backup & Recovery 10 のアドバンスト エディションへのアップグレード 44
4.1 アップグレードの前に 44
4.2 Acronis ライセンス サーバーのインストールまたはアップグレード 45
4.3 Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールのインストール 45
4.4 Acronis グループ サーバーの Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーへのアップグレード 46
4.5 Acronis バックアップ サーバーの Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードへのアップグレード.....47
4.6 Acronis True Image Echo エージェントとローカル バージョンのアップグレード.....48
4.6.1 タスクのインポート 51
5 Acronis Backup & Recovery 10 の アドバンスト エディション のアンインストール 53
5.1 Windows でのローカル アンインストール.....53
5.2 Windows での無人アンインストール 54
5.3 Linux でのアンインストール.....55
5.4 Acronis セキュア ゾーンの削除 55
5.5 ESX/ESXi 仮想アプライアンスの削除 56

1 インストールの前に

ここでは、製品をインストールする前に生じることが予期される疑問点について説明します。

1.1 Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネント

ここでは、Acronis Backup & Recovery 10 のコンポーネントとそれらの機能の簡単な説明の一覧を示します。

Acronis Backup & Recovery 10 には次の 3 種類の主要コンポーネントが含まれています。

管理対象のコンピュータ用のコンポーネント（エージェント)

これらは、Acronis Backup & Recovery 10 によって管理されるコンピュータ上でデータのバックアップ、復元、その他の処理を実行するアプリケーションです。各管理対象のコンピュータ上でエージェントが処理を実行するにはライセンスが必要です。エージェントには追加の機能を実行できるようにする複数の機能またはアドオンが含まれているので、追加のライセンスが必要になることがあります。

集中管理用のコンポーネント

これらのコンポーネントは アドバンスト エディション で提供され、集中管理機能を備えています。これらのコンポーネントの使用にライセンスは必要ありません。

コンソール

コンソールはグラフィカル ユーザー インターフェイスを備えていて、エージェントや他の Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントにリモートから接続することができます。

ブータブル メディア ビルダ

ブータブル メディア ビルダを使用して、エージェントや他のレスキュー ユーティリティをレスキュー環境で使用するためのブータブル メディアを作成することができます。レスキュー環境でエージェントのアドオンを使用できるかどうかは、メディア ビルダが動作しているコンピュータにアドオンがインストールされているかどうかによって異なります。

1.1.1 エージェント for Windows

このエージェントを使用して、Windows の下でディスク レベルおよびファイル レベルでデータを保護することができます。

ディスク バックアップ

ディスク レベルのデータ保護では、ディスクまたはボリューム ファイル システム全体とオペレーティング システムの起動に必要なすべての情報のバックアップ、またはセクタ単位でのすべてのディスク セクタのバックアップ（RAW モード）が基本になります。ディスクまたはボリュームのコピーを含むパッケージ形式のバックアップは、ディスク（ボリューム） バックアップまたはディスク（ボリューム） イメージと呼ばれます。これらのバック

アップからはディスクまたはボリュームの全体をリカバリすることも個別のフォルダやファイルをリカバリすることもできます。

ファイル バックアップ

ファイル レベルのデータ保護では、エージェントがインストールされているコンピュータ上あるいはネットワーク共有上に存在するファイルおよびフォルダのバックアップが基本になります。ファイルは、元の場所にも別の場所にもリカバリできます。バックアップされたすべてのファイルとフォルダをリカバリすることも個別に選択してリカバリすることもできます。

その他の操作

仮想コンピュータへの変換

ディスク バックアップを仮想ディスク ファイルに変換すると追加の操作によって仮想ディスクを使用可能にする必要があるため、エージェント for Windows では、VMware Workstation、Microsoft Virtual PC、Parallels Workstation、Citrix XenServer オープン仮想アプライアンス（OVA）、または Red Hat KVM.の新しい仮想コンピュータにディスク バックアップをリカバリする方法で変換を実行します。設定済みで使用可能なコンピュータのファイルは、選択したフォルダに保存されます。それぞれの仮想ソフトウェアを使用してコンピュータを起動するか、他の用途のためにコンピュータのファイルを準備することができます。

ディスクの管理

エージェント for Windows には、便利なディスク管理ユーティリティ Acronis Disk Director Lite が含まれています。ディスクのクローン作成、ディスクの変換、ボリュームの作成、ボリュームのフォーマット、ボリュームの削除などのディスク管理操作、および MBR と GPT の間のディスク パーティション スタイルの変更、ディスクラベルの変更などの操作は、オペレーティング システムで実行するかブータブル メディアを使用して実行することができます。

Universal Restore

Universal Restore アドオンを使用すると、エージェントがインストールされているコンピュータ上で異なるハードウェアの復元機能を使用して、この機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。 Universal Restore は、ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなどの Windows の起動にとって重要なデバイスの相違に対応できます。

Deduplication

エージェントでこのアドオンを使用すると、Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードによって管理されている重複除外格納域にデータをバックアップすることができます。

エージェント for Hyper-V

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Hyper-V は、Hyper-V 仮想サーバー内の仮想コンピュータを保護します。このエージェントを使用すると、各仮想コンピュータにエージェントをインストールしなくても、ホストから仮想コンピュータをバックアップすることができます。このエージェントは、Windows 2008 Server x64（任意のバージョン）または Microsoft Hyper-V Server 2008 上に Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows のアドオンとしてインストールされます。

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Hyper-V は、Acronis Online Backup ライセンスではインストールできません。

統合サービスは、ゲスト システムにインストールする必要があります。

1.1.2 エージェント for Linux

このエージェントを使用して、Linux の下でディスク レベルおよびファイル レベルでデータを保護することができます。

ディスク バックアップ

ディスク レベルのデータ保護では、ディスクまたはボリューム ファイル システム全体とオペレーティング システムの起動に必要なすべての情報のバックアップ、またはセクタ単位でのすべてのディスク セクタのバックアップ（RAW モード)が基本になります。ディスクまたはボリュームのコピーを含むパッケージ形式のバックアップは、ディスク（ボリューム) バックアップまたはディスク（ボリューム) イメージと呼ばれます。これらのバックアップからはディスクまたはボリュームの全体を復元することも個別のフォルダやファイルを復元することもできます。

ファイル バックアップ

ファイル レベルのデータ保護では、エージェントがインストールされているコンピュータ上あるいは smb または nfs プロトコルを使用してアクセスされるネットワーク共有上に存在するファイルおよびディレクトリのバックアップが基本になります。ファイルは、元の場所にも別の場所にも復元できます。バックアップされたすべてのファイルとディレクトリを復元することも個別に選択して復元することもできます。

Deduplication

エージェントでこのアドオンを使用すると、Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードによって管理されている重複除外格納域にデータをバックアップすることができます。

1.1.3 エージェント for ESX / ESXi

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for ESX/ESXi は、VMware ESX または ESXi 仮想サーバー上に存在する仮想コンピュータを保護します。このエージェントを使用すると、各仮想コンピュータにエージェントをインストールしなくても、ホストから仮想コンピュータをバックアップすることができます。

このエージェントは仮想アプライアンスとして提供されます。

1.1.4 集中管理用のコンポーネント

ここでは、Acronis Backup & Recovery 10 のエディションに含まれ、集中管理機能を提供するコンポーネントについて説明します。これらのコンポーネントに加えて、データ保護が必要なすべてのコンピュータに Acronis Backup & Recovery 10 エージェントをインストールする必要があります。

管理サーバー

Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーは、企業ネットワーク内のデータ保護を管理する中央のサーバーです。 次の機能を管理者に提供します。

 Copyright © Acronis, Inc.

- Acronis Backup & Recovery 10 インフラストラクチャへの単一のエントリ ポイント
- バックアップ ポリシーとグループを使用して、多数のコンピュータ上のデータを簡単に保護する方法
- 全社規模の監視およびレポート機能
- 全社のバックアップ アーカイブを保存するための集中管理用格納域を作成する機能
- ストレージ ノードを管理する機能

ネットワーク上に複数の管理サーバーがある場合、それらのサーバーは独立して動作し、異なるコンピュータを管理し、異なる集中管理用格納域を使用してアーカイブを保存します。

管理サーバーのデータベース

管理サーバーは、次の 3 つの Microsoft SQL データベースを使用します。

- 登録済みのコンピュータおよび管理者によって作成されたバックアップ ポリシーを含むその他の構成情報を保存する、構成データベース。
- 登録済みのコンピュータおよびストレージ ノードを管理サーバーと同期させるために使用される、同期データベース。 これは、頻繁に変更される処理データのデータベースです。
- 集中管理されるログを保存する、レポート データベース。 このデータベースは大きくなる場合があります。 サイズは、設定するログ レベルによって左右されます。

構成データベースと同期データベースは同じ Microsoft SQL Server（運用サーバーと呼ばれます）上に存在している必要があり、また、管理サーバーと同じコンピュータにインストールすることが推奨されます。 レポート データベースは、同じ SQL サーバー上でも異なる SQL サーバー上でも構成できます。

管理サーバーをインストールするときに、運用サーバーとレポート サーバーの両方にどのサーバーを使用するかを選択できます。 次のから選択できます。

1. インストール パッケージに付属し、同じコンピュータにインストールされる Microsoft SQL Server 2005 Express。 この場合、3 つのデータベースを持つ SQL サーバー インスタンスが同じコンピュータ上に作成されます。
2. 以前に任意のコンピュータにインストールされている Microsoft SQL Server 2008（任意のエディション）。
3. 以前に任意のコンピュータにインストールされている Microsoft SQL Server 2005（任意のエディション）。

VMware vCenter の統合

この機能では、VMware vCenter サーバーで管理されている仮想コンピュータを管理サーバーの GUI に表示したり、これらのコンピュータのバックアップ ステータスを vCenter に表示したり、Acronis Backup & Recovery 10 によって作成された仮想コンピュータを vCenter に自動的に登録できます。

統合は、すべての Acronis Backup & Recovery 10 アドバンスト エディション で使用でき、Virtual Edition のライセンスは必要ありません。 vCenter サーバー上にソフトウェアをインストールする必要もありません。

また、この機能を使用して、vCenter で管理されない可能性がある ESX/ESXi サーバーにエージェント for ESX/ESXi を自動的に展開および構成することもできます。

ストレージ ノード

Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードは、企業のデータ保護に必要なさまざまなリソース(企業のストレージ容量、ネットワーク帯域幅、管理対象のコンピュータの CPU 負荷など)の使用を最適化することを目的としたサーバーです。この目的は、企業のバックア

ップ アーカイブ（管理対象の格納域)の専用ストレージとして機能する場所の作成と管理によって達成されます。

ストレージ ノードを使用すると、ハードウェア サポートの観点から拡張性と柔軟性に優れたストレージ インフラストラクチャを作成することができます。最大 20 のストレージ ノードを設定することが可能で、それぞれのノードが最大 20 の格納域を管理することができます。管理者は、Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーからストレージ ノードを集中的に制御します。コンソールをストレージ ノードに直接接続することはできません。

ストレージ インフラストラクチャの設定

ストレージ ノードをインストールして管理サーバーに追加し（手順は管理対象のコンピュータの登録に似ています)、集中管理用格納域を作成します。集中管理用格納域を作成するときに、格納域のパス、格納域を管理するストレージ ノード、および格納域に対して実行する管理操作を指定します。

管理対象の格納域は次の場所に作成することができます。

- ストレージ ノードのローカルのハード ディスク ドライブ
- ネットワーク共有
- SAN （Storage Area Network)
- NAS （Network Attached Storage)
- ストレージ ノードにローカル接続されたテープ ライブラリ

管理操作は次のとおりです。

ストレージ ノード側のクリーンアップとベリファイ

管理対象外の格納域に保存されるアーカイブは、アーカイブを作成するエージェントによって保持されます。これは、各エージェントが、データをアーカイブにバックアップするだけでなく、アーカイブに適用されるサービス タスク、およびバックアップ計画によって指定された保持ルールとベリファイ ルールを実行することを意味します。管理対象のコンピュータの不要な CPU 負荷を取り除くために、サービス タスクの実行をストレージ ノードに任せることができます。タスクのスケジュールは、エージェントがインストールされたコンピュータ上に存在しており、そのコンピュータの時間とイベントを使用するため、スケジュールに従ってエージェントがストレージ ノード側のクリーンアップとストレージ ノード側のベリファイを開始する必要があります。そのためには、エージェントがオンラインになっている必要があります。それ以降の処理はストレージ ノードによって実行されます。

この機能を管理対象の格納域で無効にすることはできません。次の 2 つの操作はオプションです。

重複除外

管理対象の格納域は重複除外された格納域として設定することができます。つまり、同一のデータをこの格納域に一度だけバックアップし、バックアップ中のネットワーク使用量およびアーカイブによって使用されるストレージ容量を最小限に抑えます。詳細については、ユーザー ガイドの「重複除外」をご参照ください。

暗号化

すべての読み書きがストレージ ノードによって透過的に暗号化および復号化されるように、管理対象の格納域を設定することができます。暗号化にはノード サーバーに保存された格納域専用の暗号化キーを使用します。ストレージ メディアが盗まれたり権限のない人

 Copyright © Acronis, Inc.

物によってアクセスされた場合でも、格納域の内容はこのストレージ ノード自体にアクセスしなければ、復号化することはできません。

アーカイブがエージェントによって既に暗号化されている場合、ストレージ ノード側の暗号化はエージェントによって実行される暗号化によって適用されます。

PXE サーバー

Acronis PXE サーバーを使用すると、ネットワーク経由で Acronis ブータブル コンポーネントを使用してコンピュータを起動することができます。

ネットワーク ブートには次の利点があります。

- 起動する必要のあるシステムにブータブル メディアをインストールする技術者を現地で待機させる必要がなくなります。
- グループ操作の実行では、物理的なブータブル メディアを使用するときに比べて、複数のコンピュータを起動するのに必要な時間が短縮されます。

ライセンス サーバー

ライセンス サーバーを使用すると、Acronis 製品のライセンスを管理して、ライセンスが必要なコンポーネントをインストールすることができます。

Acronis ライセンス サーバーの詳細については、「Acronis ライセンス サーバーの使用 『15 ページ 』」をご参照ください。

1.1.5 管理コンソール

Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールは、Acronis Backup & Recovery 10 エージェントにリモートまたはローカルでアクセスするための管理ツールで、集中管理機能を備えたエディションでは Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーへのアクセスにも使用します。

コンソールには、Windows 上および Linux 上にインストールするための 2 つのディストリビューションがあります。どちらのディストリビューションでも任意の Acronis Backup & Recovery 10 エージェントおよび Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーに接続できますが、どちらか選択できる場合は Windows 用のコンソールを使用することをお勧めします。Linux 上にインストールするコンソールの機能には次のような制限があります。

- Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントのリモート インストールを使用できない。
- Active Directory の参照などの Active Directory 関連の機能を使用できない。

1.1.6 ブータブル メディア ビルダ

Acronis ブータブル メディア ビルダは、ブータブル メディアを作成するための専用のツールです。 メディア ビルダには、Windows 上および Linux 上にインストールするための 2 つのディストリビューションがあります。

Windows 上にインストールするメディア ビルダは、Windows プレインストール環境、または Linux カーネルをベースにしたブータブル メディアを作成できます。 Universal Restore 『5ページ 』 アドオンを使用して、異なるハードウェアの復元機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。 Universal Restore は、ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなどの Windows の起動にとって重要なデバイスの相違に対応できます。

Linux 上にインストールするメディア ビルダは、Linux カーネルをベースにしたブータブル メディアを作成できます。

Deduplication 『5ページ 』 アドオンを使用して、重複除外格納域のバックアップ機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。 このアドオンは、どちらのメディア ビルダ ディストリビューションにもインストールできます。

1.1.7 Acronis Wake-On-LAN プロキシ

Acronis Wake-On-LAN プロキシを使用すると、他のサブネットにあるコンピュータをバックアップする場合に Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーを起動できます。Acronis Wake-On-LAN プロキシは、バックアップするコンピュータが配置されているサブネット内の任意のサーバーにインストールできます。

1.2 サポートされるオペレーティング システム

Acronis ライセンス サーバー

- Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)
- Windows 2000 SP4 - Datacenter を除くすべてのエディション
- Windows Server 2003/2003 R2 - Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)
- Windows Small Business Server 2003/2003 R2(x86)
- Windows Vista - Vista Home Basic および Vista Home Premium を除くすべてのエディション(x86、x64)
- Windows 7 SP1 - Starter および Home を除くすべてのエディション(x86、x64)
- Windows Server 2008 - Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)
- Windows Small Business Server 2008(x64)
- Windows Small Business Server 2011
- Windows Server 2008 R2 SP1 - Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション
- Windows MultiPoint Server 2010

Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソール

- Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)
- Windows 2000 SP4 - Datacenter を除くすべてのエディション
- Windows Server 2003/2003 R2 - Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)
- Windows Small Business Server 2003/2003 R2(x86)
- Windows Vista - すべてのエディション(x86、x64)
- Windows 7 SP1 - すべてのエディション(x86、x64)
- Windows Server 2008 - Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)
- Windows Small Business Server 2008(x64)
- Windows Small Business Server 2011
- Windows Server 2008 R2 SP1 - Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション
- Windows MultiPoint Server 2010

 Copyright © Acronis, Inc.

Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーおよび Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノード

- Windows XP Professional SP3（x86、x64）
- Windows 2000 SP4 - Datacenter を除くすべてのエディション
- Windows Server 2003/2003 R2 - Standard、Enterprise の各エディション（x86、x64）
- Windows Small Business Server 2003/2003 R2（x86）
- Windows Vista - Vista Home Basic および Vista Home Premium を除くすべてのエディション（x86、x64）
- Windows 7 SP1* - Starter および Home を除くすべてのエディション（x86、x64）
- Windows Server 2008 - Standard、Enterprise の各エディション（x86、x64）
- Windows Small Business Server 2008（x64）
- Windows Small Business Server 2011
- Windows Server 2008 R2 SP1* - Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション
- Windows MultiPoint Server 2010*

* Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードは、リムーバブル記憶域管理（RSM）を使用して、テープ ライブラリとオートローダーを処理します。Windows 7、Windows Server 2008 R2、および Windows MultiPoint Server 2010 は RSM をサポートしていないため、これらのオペレーティング システムにインストールされているストレージ ノードは、テープ ライブラリおよびオートローダーをサポートしていません。

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for ESX/ESXi

- VMware ESX Infrastructure 3.5 Update 2 以降
- VMware ESX/ESXi 4.0 および 4.1

エージェント for ESX/ESXi は、仮想アプライアンスとして提供されます。

エージェント for ESX/ESXi では、無償ライセンス以外のすべての VMware ESXi ライセンスがサポートされます。これは、エージェントがリモートのコマンド ライン アプライアンスを使用しており、無償の VMware ESXi では、このアプライアンスへのアクセスが読み取り専用のアクセスに制限されるためです。このエージェントは、VMware ESXi の評価期間中は動作します。無償の VMware ESXi のプロダクト キーが入力されると、エージェント for ESX/ESXi は機能を停止します。

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Hyper-V

- Windows Server 2008/2008 R2（x64）（Hyper-V 使用）
- Microsoft Hyper-V Server 2008/2008 R2

このエージェントは、Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows のアドオンとして Hyper-V ホストにインストールされます。

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows

- Windows XP Professional SP2 以降（x86、x64）
- Windows 2000 SP4 - Datacenter を除くすべてのエディション
- Windows Server 2003/2003 R2 - Standard、Enterprise の各エディション（x86、x64）
- Windows Small Business Server 2003/2003 R2（x86）
- Windows Vista - Vista Home Basic および Vista Home Premium を除くすべてのエディション（x86、x64）

- Windows 7 SP1 - Starter および Home を除くすべてのエディション（x86、x64）
- Windows Server 2008 - Standard、Enterprise の各エディション（x86、x64）
- Windows Small Business Server 2008（x64）
- Windows Small Business Server 2011
- Windows Server 2008 R2 SP1 - Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション
- Windows MultiPoint Server 2010

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux

- Linux 2.4.20 以降のカーネル（2.6.x カーネルを含む）および glibc 2.3.2 以降
- 以下を含む、各種 32 ビットおよび 64 ビット Linux ディストリビューション
  - Red Hat Enterprise Linux 4.x および 5.x
  - Red Hat Enterprise Linux 6
  - Ubuntu 9.04（Jaunty Jackalope）、9.10（Karmic Koala）、および 10.04（Lucid Lynx）
  - Fedora 11 および 12
  - SUSE Linux Enterprise Server 10 および 11
  - Debian 4（Lenny）および 5（Etch）
  - CentOS 5
- エージェント for Linux は、実際には 32 ビットの実行可能ファイルです。エージェントは、認証のためにシステム ライブラリを使用します。64 ビットのディストリビューションでは、デフォルトでシステム ライブラリの 32 ビット版がインストールされない場合があります。64 ビットの RedHat ベースのディストリビューション（RHEL、CentOS、Fedora など）または 64 ビットの SUSE ディストリビューションでエージェントを使用する場合は、次の 32 ビットのパッケージがシステムにインストールされていることを確認してください。

  pam.i386

  libselinux.i386

  libsepol.i386

  これらのパッケージは、お使いの Linux ディストリビューションのレポジトリで使用できるようにしておく必要があります。
- RPM パッケージ マネージャを使用していないシステム（Ubuntu システムなど）に製品をインストールする場合は、インストールの前に、ルート ユーザーとして次のコマンドを実行するなどしてこのマネージャを手動でインストールする必要があります。

```
apt-get install rpm
```

アクロニス製品は、拡張ファームウェア インターフェイス（EFI）モードのシステムをサポートしていません。Windows がインストールされている場合は、アクロニス製品で GPT パーティションを復元できますが、復元されたシステムは起動可能になりません。Acronis Backup & Recovery 10 が BIOS/MBR モードでインストールされている場合は、EFI 対応サーバーで実行している場合であっても、この製品でオペレーティング システムのバックアップと復元を実行できます。多くのサーバーには、EFI モードではなく BIOS/MBR モードでインストール CD を起動できる BIOS 設定があります。MBR モードでは、インストール後に、GPT ではなく、必ず MBR 標準で起動ディスクのパーティションが作成されます。

Copyright © Acronis, Inc.

1.3 システム要件

オペレーティング システム内にインストールされるコンポーネント

コンポーネント	メモリ（OS および実行中のアプリケーションに必要な容量）	インストールまたは更新に必要なディスク領域	コンポーネントが使用するディスク領域	追加
Windows でインストールされるコンポーネント				
完全インストール	300 MB	2.7 GB	1.7 GB SQL Express Server を含む	
エージェント for Windows	120 MB	700 MB	260 MB	
エージェント for Hyper-V（アドオン）	「エージェント for Windows」を参照してください。	50 MB	20 MB	
ブータブル メディア ビルダ	80 MB	700 MB	300 MB	CD-RW または DVD-RW ドライブ
管理コンソール	30 MB	950 MB	450 MB	画面解像度 1024 x 768 ピクセル以上
管理サーバー	40 MB	250 MB SQL Express Server 用に 400 MB	250 MB SQL Express Server 用に 400 MB	
Wake-on-LAN プロキシ	少量	30 MB	5 MB	
ストレージ ノード	100 MB	150 MB	150 MB テープ ライブラリを使用する場合、テープ データベース用に必要なディスク領域: 10 アーカイブごとに約 1 MB	推奨されるハードウェア: 4 GB の RAM ハードウェア RAID などの高速ストレージ
ライセンス サーバー	少量	25 MB	25 MB	
PXE サーバー	5 MB	80 MB	15 MB	
Linux でインストールされるコンポーネント				
完全インストール	160 MB	400 MB	250 MB	
エージェント for Linux	65 MB	150 MB	70 MB	
ブータブル メディア ビルダ	70 MB	240 MB	140 MB	
管理コンソール	25 MB	100 MB	40 MB	

VMware ESX（i）サーバーにインストールされるコンポーネント				
ESX/ESXi Virtual Appliance エージェント	512 MB （仮想アプライアンスのメモリ設定）	5 GB	5 GB	CPU 予約: 300 MHz 以上を推奨 vCenter クラスタ内に共有ストレージが必要です。

ネットワーク インターフェイス カードまたは仮想ネットワーク アダプタは、すべてのコンポーネントに必要です。

ブータブル メディア

メディアの種類	メモリ	ISO イメージ サイズ	追加
Windows PE ベース	512 MB	300 MB	
Linux ベース	256 MB	130 MB	

1.4 ライセンス ポリシー

Acronis Backup & Recovery 10 のライセンス数は、製品によって管理および保護するコンピュータの数に基づきます。 各管理対象のコンピュータ上で Acronis Backup & Recovery 10 エージェントが処理を実行するにはライセンスが必要です。 ライセンスの確認方法は、スタンドアロン製品のエディション、および集中管理が可能なエディションによって異なります。

集中管理が可能なエディション

次のエディションがあります。

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server（ABR10 AS）

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server Virtual Edition（ABR10 AS VE）

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server SBS Edition（ABR10 AS SBS）

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Workstation（ABR10 AW）

これらのエディションには、エージェントのインストール前にインストールする必要がある Acronis ライセンス サーバーが含まれています。 ライセンス キーは、サーバーのインストール時またはインストール後に、.txt ファイルまたは .eml ファイルから Acronis ライセンス サーバーにインポートできます。 ABR10 AS の場合、1 つのライセンス キーで 1 台の物理ホストと 4 つの仮想コンピュータにエージェントをインストールできます。 ABR10 AS VE では、1 つのライセンス キーで 1 台の物理ホストと任意の数のホストされている仮想コンピュータにエージェントをインストールできます。

Acronis Backup & Recovery 10 エージェントは、エージェント サービスの開始時、およびエージェントの設定パラメータに従って 1 ～ 5 日ごとに Acronis ライセンス サーバーに接続します。 エージェントがライセンス サーバーに接続できなかったり、適切なライセンス キーが 1 ～ 60 日間（設定パラメータで指定されます）にわたって見つからない場合は、ライセンスが正常に確認されるまで処理を停止します。

Copyright © Acronis, Inc.

デフォルトでは、エージェントはライセンス サーバーに対して毎日接続を試行し、ライセンス サーバーまたはライセンスがなくても 30 日間機能します。

ライセンスの取り消し

管理対象のコンピュータのサービスが永続的に停止されて交換された場合、またはコンピュータのネットワーク カードが交換された場合（この場合、通常は MAC アドレスが変更されます）、対応するライセンスを取り消して、そのライセンスを再度使用できます。

アクロニスのエンド ユーザー使用許諾契約書には、次のように記されています。

永続的なハードウェア障害により、ライセンス取得済みのハードウェアを廃棄する場合、ソフトウェア ライセンスを再割り当てすることができます。 ソフトウェア ライセンスを再割り当てする場合、ライセンスを再割り当てするハードウェアは、特定のソフトウェア ライセンスについて新規にライセンスを取得したハードウェアになります。

1.5 Acronis ライセンス サーバーの使用

Acronis ライセンス サーバーを使用すると、Acronis 製品の個々のライセンスを追跡することができます。

ライセンス キーは、Acronis Backup & Recovery 10 エージェントが管理するコンピュータの MAC（Media Access Control)アドレスに関連付けられています。コンピュータに複数のネットワーク インターフェイス カード（NIC)が取り付けられている場合、ライセンス キーは最初に列挙されている物理 NIC およびその MAC アドレスに関連付けられます。

Acronis ライセンス サーバーは、.txt ファイルまたは .eml ファイルから複数のライセンス キーをインポートできるため、数字の入力作業にかかる時間を短縮することができます。

アップグレード、修復、または再インストールに際して、Acronis ライセンス サーバーはすべてのインポート済みのライセンスをそのまま保持します。ただし、念のため、ライセンス キーを記載したテキスト ファイルをリムーバブル メディアにコピーするか、またはファイルのハード コピーを作成して安全な場所に保管しておくことをお勧めします。このようにしておくと、ハードウェア障害が発生した場合でも、ライセンス データを使用することが可能になります。

ライセンス情報の表示

1. Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールを実行します。
2. **［ライセンスの管理］**をクリックします。Acronis ライセンス サーバーがインストールされているコンピュータに接続します。これにより、ライセンス サーバーで使用できるすべてのライセンス キーが表示されます。1 つのライセンス キーに複数のライセンスを含めることができます。

   項目（欄見出し)バーを右クリックし、次の中から表示する詳細情報を選択します。製品名、ライセンス キー、登録日、有効期限、各ライセンス キーに割り当てられているライセンスの総数、およびそのライセンス キーのうち使用可能なライセンス数と使用中のライセンス数。たとえば、1 つのライセンスが 1 つのライセンス キーに対応している場合は、総数=1、使用可能=1、使用中=0（ライセンスが未使用の場合)、または使用可能=0、使用中=1（ライセンスが取得済みの場合)となります。
3. 使用中のライセンスの詳細情報を表示するには、サイドバーの**［使用情報の表示］**を選択します（すべてのライセンスが未使用の場合、この項目は表示されません)。

   この表示モードでは、取得されたすべてのライセンスが一覧表示されます。項目（欄見出し)バーを右クリックし、次の中から表示する詳細情報を選択します。製品名、ホスト

名、ホスト アドレス、ライセンス キー、取得日(ライセンスを使用する製品が配置またはインストールされた日付)、および更新日。

［**表示**］→［**アイコンを整理します**］を選択して、任意の一覧を並べ替えることができます。

ライセンスの削除

Acronis ライセンス サーバーからライセンスを完全に削除するには、使用可能なライセンスの一覧からライセンスを選択し、サイドバーの［**ライセンスの削除**］をクリックします。

ライセンスの取り消し

取り消しにより、使用中のライセンスが再び使用可能になります。取り消しは次の場合に必要になることがあります。

- 管理対象のコンピュータを永続的に停止する場合。

  コンピュータを停止する前または後にコンピュータからライセンスを取り消す場合。
- 管理対象のコンピュータでネットワーク カードを交換する場合。

  通常、コンピュータのネットワーク カードを交換すると、MAC アドレスが変更されるので、このコンピュータのエージェントは動作しなくなります。ネットワーク カードを交換する前または後にコンピュータからライセンスを取り消してください。コンピュータの電源がオンになると、エージェントはライセンス サーバーにアクセスし、使用可能ないずれかのライセンスを自動的に取得します。これにより、エージェントは完全に動作可能になります。

ライセンスを取り消す手順は、次のとおりです。

1. ［**使用可能なライセンス**］ビューで、製品を選択します。
2. サイドバーの［**使用情報の表示**］をクリックします。
3. ライセンスを取り消すホストを選択します （［**ホスト名**］列を参照)。
4. サイドバーで［**ライセンスの取り消し**］をクリックします。

エージェントがアンインストールされると、アンインストールの時点でライセンス サーバーがアクセス可能であれば、そのライセンスがライセンス サーバーから取り消されます。これは、Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for ESX/ESXi 以外のすべてのエージェントに当てはまります。

Acronis ライセンス サーバー 管理ツールの使用

LicenseServerCmdLine.exe ファイルは、ライセンス サーバーのインストール フォルダにあります。デフォルトのフォルダは、\Program Files\Acronis\LicenseServer です。

LicenseServerCmdLine.exe は、次の構文規則に従って使用します。

```
LicenseServerCmdLine [コマンド] [オプション 1] [オプション 2]
```

LicenseServerCmdLine.exe は、以下のコマンドとコマンド オプションをサポートしています。

```
--status [サーバー名またはサーバーの IP アドレス]
```

指定したライセンス サーバーのステータス（各 Acronis 製品のライセンスの総数/使用可能な数)を表示します。

```
--import [サーバー名] [ライセンス キー]
```

 Copyright © Acronis, Inc.

指定したライセンス サーバーに新しいライセンス キーを追加します。複数のライセンス キーを（空白で区切って)指定できます。

```
--import-file [サーバー名] [ファイル名]
```

.txt ファイルまたは .eml ファイルからライセンス キーをインポートします。

```
--help
```

ヘルプ情報を表示します。

2 Acronis Backup & Recovery 10 のインストール

ここでは、製品のインストール時に生じることが予期される疑問点について説明します。

2.1 ローカル インストール（Windows)

Acronis Web サイトから完全なインストール パッケージをダウンロードするか、選択したコンポーネントだけをインストールする小規模な実行可能パッケージをダウンロードするかを選択できます。

2.1.1 準備

Acronis ライセンス サーバーをインストールし、ライセンスをインポートします。 試用版のライセンス キーを使用する場合は、この手順をスキップできます。

ライセンス サーバーをインストールするには、次の手順に従います。

1. セットアップ プログラムを開始します。
2. **[Acronis ライセンス サーバーのインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約の内容に同意します。
4. **[ファイルからキーのインポート]** をクリックして、ライセンス キーの一覧が含まれているファイルを指定します。 複数のファイルを 1 つずつ指定することも、ライセンス キーを手動で入力することもできます。

   詳細 追加のライセンス キーは、キーを含むファイルを指定するか、キーを手動で入力することによって、後からいつでもインポートできます。
5. **[インストール先:]** と **[インストール対象:]** にはデフォルト値を使用します。
6. インストールを続けます。

Acronis Backup & Recovery 10 では、ローカルのインストール環境およびコンポーネント間の通信に TCP ポート 9876 を使用します。 このポートは、セットアップ プログラムにより Windows ファイアウォールを経由して自動的に開かれます。 別のファイアウォールを使用している場合は、そのファイアウォール経由の受信要求と送信要求の両方に対して必ずこのポートを開いてください。

2.1.2 インストール手順

Acronis Backup & Recovery 10 をインストールする手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 10 のセットアップ ファイルを実行します。
2. **[Acronis Backup & Recovery 10 のインストール]** をクリックします。
3. 次のいずれかを実行します。
   - 製品の すべての機能をインストールするには、**[すべての機能を使用できる Acronis Backup & Recovery 10]** をクリックします。

4. 製品のすべての機能をインストールする場合は、Acronis ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを指定します。 それ以外の場合は、この手順をスキップします。
5. インストールする製品エディションを選択します。

   管理コンソール、管理サーバー、およびストレージ ノードは、全エディションで同じです。 これらのコンポーネントのいずれかをインストールするときは、エディションを選択するのではなく、**[全エディションで使用可能なライセンス不要のコンポーネントをインストールする]** チェックボックスをオンにします。 いずれの場合でも、インストールによってライセンスが消費されることはありません。
6. インストールするコンポーネントを選択し、コンポーネントの機能を指定します。
7. メッセージが表示されたら、選択したコンポーネントに応じて次の 1 つ以上のパラメータを指定します。
   - Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネント サービスのログイン情報。 デフォルトでは、セットアップ プログラムによってサービスごとに専用のユーザー アカウントが作成されます。 詳細については、「Acronis サービスのログイン情報の指定 『19ページ 』」を参照してください。
   - Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーで使用する Microsoft SQL サーバーの名前。 詳細については、「Microsoft SQL サーバーの指定 『20ページ 』」を参照してください。
   - Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows や Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードを管理サーバーに登録するかどうか。 詳細については、「管理サーバーへのコンポーネントの登録 『21ページ 』」を参照してください。
   - コンピュータにリモートから接続できるユーザーの名前。 詳細については、「リモートから接続できるユーザーの指定 『21ページ 』」を参照してください。

概要ウィンドウには、コンピュータにインストールされるコンポーネントの一覧が表示されます。

注意: Windows では、インストール手順をキャンセルすると、最後のパッケージのみが削除されます。 他のコンポーネントがある場合、インストールされたままになります。

2.1.3 Acronis サービスのログイン情報の指定

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows、Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバー、および Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードの各コンポーネントは、サービスとして実行されます。 コンポーネントのインストール時に、コンポーネントのサービスを実行するアカウントを指定する必要があります。

サービスごとに、専用のユーザー アカウントを作成するか（ほとんどの場合にお勧めします）、ローカル ユーザーまたはドメイン ユーザーの既存のアカウント（たとえば、**\LocalUser** または **DomainName\DomainUser**）を指定することができます。

サービス専用のユーザー アカウントの作成を選択すると、次のアカウントが作成されます。

- Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows サービス用: **Acronis Agent User**
- Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバー サービス用: **AMS User**
- Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノード サービス用: **ASN User**

新しく作成されたアカウントには、次の権限が付与されます。

- これらの 3 つのアカウントすべてに、**サービスとしてログオン**のユーザー権限が割り当てられます。
- Acronis Agent User ユーザー アカウントには、**プロセスのメモリ クォータの増加**および**プロセス レベル トークンの置き換え**のユーザー権限が割り当てられます。
- Acronis Agent User および ASN User ユーザー アカウントは、**Backup Operators** グループに含まれます。
- AMS User ユーザー アカウントは、**Acronis Centralized Admins** グループに含まれます。

対応するサービスに指定した既存のアカウントに、上記のユーザー権限がセットアップ プログラムによって割り当てられます。

エージェント サービスまたはストレージ ノード サービスに既存のユーザー アカウントを指定する場合は、インストールを続行する前に、このアカウントが **Backup Operators** グループのメンバであることを確認してください。

管理サーバー サービスに既存のユーザー アカウントを指定する場合は、このアカウントは **Acronis Centralized Admins** グループに自動的に追加されます。

コンピュータが Active Directory ドメインの一部である場合は、ここで説明した既存のアカウントまたは新規に作成されたアカウントへの上記のユーザー権限の付与がドメインのセキュリティ ポリシーによって妨げられないようにしてください。

重要: インストール後は、コンポーネントのサービスに対して異なるユーザーアカウントを指定しないでください。コンポーネントが動作を停止する可能性があります。

2.1.4 Microsoft SQL サーバーの指定

Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーのインストール時に、管理サーバーのデータベース用の Microsoft SQL サーバーを指定する必要があります。

- **運用 SQL サーバー**は、Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントを確実に同期し、ポリシー構成を保存します。
- **レポート SQL サーバー**は、処理のログと統計データを保存します。このサーバーに保存されるデータベースは、時間が経過するとかなり大きくなる場合があります。

それぞれの SQL サーバーに対して、次のいずれかを選択します。

- インストール パッケージに含まれ、同じコンピュータにインストールされる Microsoft SQL Server 2005 Express。この場合、コンピュータ上には 1 つの SQL サーバー インスタンスが作成されます。
- いずれかのコンピュータにインストール済みの Microsoft SQL Server 2008（任意のエディション)。
- いずれかのコンピュータにインストール済みの Microsoft SQL Server 2005（任意のエディション)。

推奨事項

運用 SQL サーバー用には、管理サーバーと同じコンピュータ上にあるサーバー（インストール パッケージに含まれる Microsoft SQL Server 2005 Express など)を選択することをお勧めします。

レポート SQL サーバー用には、運用 SQL サーバーと同じサーバーまたは別のサーバーを選択できます。また、同じコンピュータ上になくてもかまいません。

Copyright © Acronis, Inc.

2.1.5 管理サーバーへのコンポーネントの登録

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows、または Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノード、あるいはその両方のインストール時に、これらのコンポーネントを Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーに登録するかどうかを指定する必要があります。

エージェントを管理サーバーに登録すると、管理サーバーの管理者はコンピュータを集中管理できるようになります。このようなコンピュータは、登録済みのコンピュータと呼ばれます。

ストレージ ノードを管理サーバーに登録すると、登録済みのコンピュータのデータをストレージ ノードの集中管理用格納域にバックアップしたり、復元できるようになります。

インストール時にエージェントやストレージ ノードを登録する手順（推奨)は、次のとおりです:

1. ［**指定したコンピュータにインストールされた管理サーバーに登録する**］をクリックします。
2. 管理サーバーがインストールされているコンピュータの名前または IP アドレスを指定します。このコンピュータはオンラインである必要があります。たとえば、管理サーバーがインストール中のコンポーネントに含まれている場合は、ローカル コンピュータを指定できます。
3. 管理サーバーのコンピュータの Acronis Centralized Admins グループのメンバであるユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。管理サーバーをローカル コンピュータにインストールしている場合は、Administrators グループのメンバであるユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。

登録をスキップする手順は、次のとおりです。

- ［**後からコンポーネントを登録する**］をクリックします。

インストール後は、管理サーバーのインターフェイスから、管理サーバー上のコンポーネントの登録や削除を行うことができます。

2.1.6 リモートから接続できるユーザーの指定

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows、または Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバー、あるいはその両方のインストール時に、コンピュータをリモートから管理できるユーザーの一覧を Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールから指定する必要があります。

デフォルトでは、そのコンピュータの Administrators グループのすべてのメンバが一覧に含まれます。コンピュータが Active Directory ドメインに含まれている場合は、ドメイン管理者も含まれることに注意してください。

Acronis Remote Users グループが作成され、一覧に含まれるユーザーがグループに追加されます。グループのメンバを追加または削除することにより、コンピュータにリモート接続できるユーザーが追加または削除されます。

2.1.7 アップデート

1 つ以上の Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントを更新する手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 10 の更新バージョンを含むインストール パッケージを実行します。
2. ［**Acronis Backup & Recovery 10 のインストール**］をクリックします。

3. Acronis ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを指定します。
4. ［**更新**］をクリックします。
5. 画面の指示に従います。

無人モードでのコンポーネントの更新

無人モードでのコンポーネントの更新については、「Windows での無人インストール 『24 ページ 』」をご参照ください)。

2.2 リモート インストール（Windows）

Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントはリモートからインストールできます。

リモート インストールを実行するには、ターゲット コンピュータでの管理者権限が必要です。

準備

1. Acronis ライセンス サーバーをインストールし、ライセンスをインポートします。 試用版のライセンス キーを使用している場合は、この手順をスキップできます。
2. Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールをインストールします。
3. 任意の Windows XP バージョンを実行しているリモート コンピュータでのインストールには、そのコンピュータで **[コントロール パネル] → [フォルダ オプション] → [表示]** を選択して表示される **[簡易ファイルの共有を使用する（推奨）]** オプションが無効になっている必要があります。
4. Windows XP Service Pack 2 または Windows 2003 Server を実行しているリモート コンピュータでのインストールには、そのコンピュータで **[コントロール パネル] → [Windows ファイアウォール] → [例外]** を選択して表示される **[ファイルとプリンタの共有]** オプションが有効になっている必要があります。
5. Acronis Backup & Recovery 10 のリモート インストールには TCP ポート 445 および 25001 を使用します。 この 2 つのポートを、リモート コンピュータ上のファイアウォール設定の例外に必ず追加してください。

   ヒント: リモート コンピュータが Active Directory ドメインのメンバであり、Windows ファイアウォール以外のファイアウォールを使用していない場合は、グループ ポリシーを使用して TCP ポート 25001 を例外に追加することができます。 ドメイン コントローラでグループ ポリシー オブジェクトを作成し、**[管理用テンプレート] → [ネットワーク] → [ネットワーク接続] → [Windows ファイアウォール] → [ドメイン プロファイル] → [Windows ファイアウォール: ポートの例外を定義する]** に移動して、次のポートの例外を追加します。
   25001:tcp:*:enabled:Acronis remote install
   [ファイルとプリンタの共有] を有効にすると、TCP ポート 445 は、Windows ファイアウォールによって自動的に例外に追加されます。

リモート インストールが完了したら、両方のポートを例外から除外することができます。

インストール

1. Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールを実行します。
2. **[Acronis コンポーネントのインストール]** をクリックします。
3. 次のいずれかを実行します。
   - Acronis ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを指定し、**[次へ]** をクリックします。 ライセンス サーバーに Acronis Backup & Recovery 10 の複数のエディショ

Copyright © Acronis, Inc.

ンのライセンスが含まれている場合は、インストールするエディションを選択します。

- 試用版のライセンス キーを入力します。 複数のコンピュータへのリモート インストールに対し、単一の試用版のライセンス キーを使用できます。

4. インストール ファイルの場所を選択します。 デフォルトの選択肢である **[登録済みのコンポーネント]** では、デフォルトのフォルダ C:\Program Files\Common Files\Acronis\RemoteInstall にあるインストール ファイルが使用されます。
5. インストールするコンポーネントとそれらの機能を指定します。 主要コンポーネントをインストールしていないか、インストールすることを選択していない場合は、機能またはアドオンをインストールできません。
6. エージェントのインストールを選択した場合は、エージェントのインストール後、管理サーバーにコンピュータを登録するかどうかを指定します。
7. コンポーネントをインストールするコンピュータを選択します。 次の方法があります。
   - ネットワークを参照する。 ネットワークを参照すると、個々のコンピュータ、ワークグループ全体、またはドメイン全体を選択できます。
   - コンピュータ名または IP アドレスを入力する（**[次へ]** をクリックし、コンピュータを一覧に追加します）。
   - .txt ファイルまたは .csv ファイルからコンピュータの一覧をインポートする。
8. コンピュータごとに管理者のユーザー名とパスワードを指定します。 ネットワーク上に共通した管理者アカウントがある場合は、1 台のコンピュータでアカウントのログイン情報を入力し、選択したすべてのコンピュータにその情報を適用するためのオプションを設定します。 ドメイン管理者のログイン情報、ワークグループの共通したログイン情報は、この方法で適用できます。

   すべてのコンピュータに適用するログイン情報を指定しない場合、またはログイン情報が有効ではないコンピュータがある場合は、インストール時にログイン情報を指定することもできます（ユーザー名やパスワードに誤りがある場合に表示される **[他のユーザー]** オプションがあります）。

   注意: コンピュータが Active Directory ドメインのドメイン コントローラである場合は、そのドメインの名前をユーザー名と共に指定する必要があります。 例: **MyDomain\Administrator**

9. 選択したうちの一部のコンピュータに試用版製品がインストールされている場合は、該当するコンピュータの一覧が表示されます。 試用版を製品版にアップグレードするコンピュータを選択します。
10. エージェントのインストールを選択した場合は、エージェント サービス用に新しいアカウントを作成するか、または既存のアカウントを使用するのかを指定します。 詳細については、「Acronis サービスのログイン情報の指定 『19ページ 』」を参照してください。

概要ウィンドウには、コンポーネントがインストールされるコンピュータの一覧が表示されます。

インストールが開始されると、処理の進行状況と、コンポーネントがインストールされているコンピュータの名前が表示されます。

更新

リモート コンピュータ上の 1 つ以上のコンポーネントを更新するには、インストール手順を繰り返します。

製品版へのアップグレード

1 つ以上のコンポーネントを試用版から製品版にアップグレードするには、それらのコンポーネントの製品版ライセンス キーをライセンス サーバーにインポートしてから、インストール手順を繰り返します。 試用版からオンライン バックアップ専用のバージョンにアップグレードするには、ライセンス キーを指定せずにインストール手順を繰り返します。

2.3 Windows での無人インストール

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows などの Acronis コンポーネントは、対話型モードだけでなく、無人モードでインストールすることができます。

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows をインストールする場合は、コンフィギュレーション スクリプト **mst_gen.vbs** が必要です。このスクリプトは、Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールがインストールされているフォルダ（デフォルトでは、C:\Program Files\Acronis\BackupAndRecoveryConsole）にあります。 管理コンソールが別のコンピュータにインストールされている場合には、そのコンピュータからスクリプトをコピーできます。

次のコンポーネントと機能は、無人モードで再インストールまたは更新できます。

- Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows: **AcronisAgentWindows.msi**
- Acronis Backup & Recovery 10 Universal Restore: **AcronisUniversalRestore.msi**
- Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication: **AcronisDeduplication.msi**
- Acronis Backup & Recovery 10 ブータブル メディア ビルダ: **AcronisBootableComponentsMediaBuilder.msi**
- Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソール（アドバンスト エディション 用）: **AcronisManagementConsole.msi**
- Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソール（スタンドアロン エディション用）: **AcronisStandaloneManagementConsole.msi**

エージェントの機能（Universal Restore など）をインストールする前に、エージェント自体をインストールする必要があります。

コンポーネントを無人モードでインストール、再インストール、更新する手順は、次のとおりです。

1. セットアップ プログラムを実行します。
2. **[インストール ファイルの取り出し]** をクリックします。
3. コンポーネントのインストール パッケージを取り出します。
4. エージェント for Windows をインストールする場合は、コンフィギュレーション スクリプトを実行して、エージェントのインストール パッケージのトランスフォーム（.mst ファイル）を作成します。 それ以外の場合は、この手順をスキップします。

   たとえば、次のコマンドは、試用版ライセンス キー ABCDE-54321 を使用して エージェント for Winodws をインストールするトランスフォームを作成します。

   ```
   mst_gen.vbs /msi_path C:\AcronisAgentWindows.msi /serial ABCDE-54321
   ```

   このセクションの後述の例もご参照ください。 コンフィギュレーション スクリプトの構文の詳細は、「コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ 『25ページ 』」をご参照ください。

 Copyright © Acronis, Inc.

5. 次のいずれかの方法を使用して、コンポーネントのインストール、再インストール、または更新を行います。
   - コンポーネントをインストールする場合は、次のようにパッケージの名前（および必要に応じてトランスフォームの名前）を指定して Windows インストーラ（**msiexec** プログラム）を実行します。

     エージェント for Windows をインストールする場合:

     ```
     msiexec /i c:\AcronisAgentWindows.msi TRANSFORMS=AcronisAgentWindows.mst /qb
     ```

     それ以外の場合（この例では、Universal Restore 機能をインストール）:

     ```
     msiexec /i c:\AcronisUniversalRestore.msi /qb
     ```

   - コンポーネントを再インストールまたは更新する場合は、次のように Windows Installer を実行します。

     エージェント for Windows を再インストールまたは更新する場合:

     ```
     msiexec /i C:\Share\AcronisAgentWindows.msi
     TRANSFORMS=C:\Share\AcronisAgentWindows.mst ADDLOCAL=ALL /qb
     ```

     それ以外の場合（この例では、Universal Restore 機能を再インストールまたは更新）:

     ```
     msiexec /i C:\Share\AcronisUniversalRestore.msi ADDLOCAL=ALL /qb /l*v
     C:\log.log
     ```

Active Directory ドメインでは、グループ ポリシーを使用して、サポートされているコンポーネントの無人インストール、再インストール、または更新を行う方法があります。詳細については、「グループ ポリシーを使用したエージェントのインストール 『28ページ 』」を参照してください。

トランスフォームの作成例

エージェント for Windows のインストール パッケージのトランスフォームを作成する次のコマンドについて考えてみます。

```
mst_gen.vbs /msi_path C:\AcronisAgentWindows.msi /license_server licensesrv
/product AS /account mydomain\agentuser MyPassWd /ams_address managementsrv
/ams_user adminname AdminPassWd
```

このトランスフォームを無人インストールすると、次のようになります。

- エージェントは、**licensesrv** コンピュータにインストールされているライセンス サーバーから Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server エディションのライセンスを取得して使用します。
- エージェントのサービスは、**mydomain** ドメインの **agentuser** ドメイン ユーザー アカウント（パスワードは **MyPassWd**）で実行されます。
- エージェントが、**managementsrv** コンピュータにインストールされている Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーに登録されます。**adminname** と **AdminPassWd** には、管理サーバーの管理者のユーザー名とパスワードをそれぞれ指定します。

2.4 コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ

コンフィギュレーション スクリプト **mst_gen.vbs** は、Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows などの Acronis コンポーネントのインストール パッケージ用の .mst ファイル（トランスフォーム、変更、または変更ファイルとも呼ばれます）を作成します。

インストール パッケージとともにトランスフォームを使用すると、インストール パッケージを手動で実行するか、グループ ポリシーを使用して展開することで、コンポーネントを無人モードでインストールできます。

コンフィギュレーション スクリプトの完全な構文を次に示します。

mst_gen.vbs
/msi_path Full_Path
[**/current_user**]
[**/target_dir** Installation_Folder]
{**/serial** License_Key [**/old_serial** Echo_License_Key] | **/license_server** License_Server **/product** Edition_Code | **/online_backup** | **/advanced_online_backup**}
[**/account** User_Name Password]
[**/remote_users** User1 User2 ... UserN]
[**/ams_address** Management_Server **/ams_user** Admin_Name Password]
[**/cep_enabled**]

このスクリプトのパラメータについて説明します。

/msi_path Full_Path

コンポーネントのインストール パッケージのフル パスを指定します。 **D:\folder\AcronisAgentWindows.msi** などのローカル パス、または **\\server\folder\AcronisAgentWindows.msi** などの汎用名前付け規則（UNC）のパスを入力します。

/current_user

コンポーネントを、コンピュータ上のすべてのユーザー用にインストールするのではなく、現在のユーザー用のみにインストールする場合に指定します。

このパラメータは、サービスとして動作する Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows、Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバー、および Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードの各コンポーネントには使用できません。

グループ ポリシーを使用してコンポーネントをインストールする際は、インストールの「現在のユーザー」が通常はシステム アカウントであるため、このパラメータは使用しないでください。

/target_dir Installation_Folder

コンポーネントのインストール先フォルダを指定します。 このパラメータを指定しないと、コンポーネントはデフォルト フォルダ（%ProgramFiles%\Acronis\BackupAndRecovery）にインストールされます。

次のパラメータは Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows のインストールに対してのみ有効です。

/serial License_Key

パッケージのインストール時に使用するライセンス キーを指定します。 ライセンス キーは、ダッシュで区切られた一連の英数字です。 ライセンス キーはダッシュも含めて正確に入力してください。

/old_serial Echo_License_Key

Acronis True Image Echo からアップデートする場合、このエディション用のライセンス キーを指定します。 このパラメータは **/serial** パラメータとともに使用します。

ライセンス キーが Acronis ライセンス サーバーに保存されている場合は、代わりに **/license_server** パラメータを使用します。

 Copyright © Acronis, Inc.

/license_server License_Server

Acronis ライセンス サーバーがインストールされているコンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

このパラメータを使用するときは、**/product** パラメータも指定します。

/product Edition_Code

Acronis Backup & Recovery 10 のエディションのコードを指定します。

コードは次のとおりです。

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server: **AS**

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server SBS Edition: **SBS**

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Workstation: **AW**

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server Virtual Edition: **VE**

/account User_Name Password

コンピュータで Acronis Managed Machine Service を実行するユーザー アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。 このユーザー アカウントは適切な権限を持っている必要があります（「Acronis サービスのログイン情報の指定 『19ページ 』」をご参照ください）。 ドメイン名とアカウント名は **mydomain\User** のように円記号で区切ります。

このパラメータを指定しないと、エージェントはデフォルトのアカウント（**Acronis Agent User**）で実行されます。

/remote_users User1 User2 ... UserN

Acronis Remote Users グループに追加するユーザー名を指定します。

このパラメータを指定すると、指定したユーザーのみがグループに追加されます。 ユーザー名を複数指定する場合は、スペースで区切って指定します。

このパラメータを指定しないと、コンピュータ上の Administrators グループのすべてのメンバがグループに追加されます。

Acronis Remote Users グループのメンバは、エージェントにリモート接続できます。

/ams_address Management_Server

Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーの名前または IP アドレスを指定します。 このパラメータを指定すると、インストールの完了後、コンピュータが自動的に管理サーバーに登録されます。

/ams_user Admin_Name Password

管理サーバーの **Acronis Centralized Admins** グループのメンバであるユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。 このパラメータは、**/ams_address** パラメータとともに使用します。

/cep_enabled

コンピュータのカスタマ エクスペリエンス プログラムへの参加の可否を指定します。

このパラメータを指定すると、ハードウェア構成、使用頻度の最も高い機能と最も低い機能、および問題に関する情報が自動的にコンピュータから収集されて、定期的にアクロニスに送信されます。 参加条件については、アクロニスの Web サイトを参照してください。

このパラメータを指定しないと、情報は送信されません。

2.5 グループ ポリシーを使用したエージェントのインストール

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows は、グループ ポリシーを使用することで、Active Directory ドメインのメンバであるコンピュータに 1 箇所からインストールまたは配置できます。グループ ポリシーとは、Microsoft Windows 2000 Server 以降の Windows サーバー オペレーティング システムで用意されているメカニズムです。

2.5.1 エージェントの配置の準備

このセクションと次のセクションでは、グループ ポリシー オブジェクトを設定して、ドメイン全体またはその組織単位のコンピュータに Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows を配置する方法について説明します。

コンピュータがドメインにログオンするたびに、適用されるグループ ポリシー オブジェクトにより、そのコンピュータにエージェントがインストールされていて、機能していることが保証されます。

前提条件

エージェントの配置に進む前に、次の項目を確認します。

- Active Directory ドメインと、Microsoft Windows Server 2003 以降を実行しているドメイン コントローラがある。
- ドメインの Domain Admins グループのメンバである。
- ライセンス キーを把握しているか、Acronis ライセンス サーバーがインストールされているコンピュータの名前または IP アドレスを把握している。
- Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールがインストールされた Windows を実行するコンピュータがある。

手順 1: インストール パッケージの取り出し

エージェントのインストール パッケージ（.msi ファイルとして提供されます）を保存する共有フォルダを作成し、そこにパッケージを取り出す必要があります。

1. ドメイン コントローラ（またはドメイン内の任意のコンピュータ）にフォルダ（**D:\Acronis** など）を作成します。
2. Acronis Backup & Recovery 10 セットアップ プログラムを開始します。
3. **[インストール ファイルの取り出し]** をクリックします。
4. **[エージェント for Windows（AcronisAgentWindows.msi）]** チェックボックスをオンにします。
5. Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication をインストールする場合は、**[重複除外（AcronisDeduplication.msi）]** チェックボックスをオンにします。
6. Acronis Backup & Recovery 10 Universal Restore をインストールする場合は、**[Universal Restore（AcronisUniversalRestore.msi）]** チェックボックスをオンにします。

   注意: Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server Virtual Edition では、Universal Restore 機能は既に有効になっているので、別にインストールする必要はありません。

7. **[取り出し先]** に、作成したフォルダの名前を入力するか、**[参照]** をクリックしてフォルダを選択します。
8. **[取り出し]** をクリックします。
9. インストール パッケージを置いたフォルダを共有します。 共有フォルダにドメイン ユーザーがアクセスできるようにします。たとえば、デフォルトの共有設定を **[Everyone]** のままにします。

Copyright © Acronis, Inc.

手順 2: エージェントのインストール パッケージの設定

重要: エージェントを再インストールまたは更新する場合は、この手順をスキップしてください。

管理コンソールと共にインストールされたコンフィギュレーション スクリプトを実行して、エージェントのインストール パッケージを設定する必要があります。 デフォルトでは、このスクリプトは %ProgramFiles%\Acronis\BackupAndRecoveryConsole フォルダにあります。 管理コンソールが別のコンピュータにインストールされている場合には、そのコンピュータからコンフィギュレーション スクリプトをコピーできます。

このコンフィギュレーション スクリプトにより、インストール パッケージのトランスフォーム（変更、変更ファイル、または .mst ファイルとも呼ばれます）を作成します。

1. **[スタート]** メニューで、**[ファイル名を指定して実行]** をクリックし、「**cmd**」と入力します。
2. **[OK]** をクリックします。
3. 現在のフォルダをコンフィギュレーション スクリプト **mst_gen.vbs** が存在するフォルダに変更するため、次のコマンドを実行します。

```
C:
cd "C:\Program Files\Acronis\BackupAndRecoveryConsole"
```

4. コンフィギュレーション スクリプトを実行します。

   たとえば、次のコマンドによって、ファイル **D:\Acronis\Acronis\AgentWindows.msi** のトランスフォームが作成され、**mylicensesrv** にインストールされたライセンス サーバーから Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server エディションのライセンスが使用されます。エージェントはユーザー アカウント **mydomain\AgentUser** で実行されます。

```
mst_gen.vbs /msi_path D:\Acronis\AgentWindows.msi /license_server mylicensesrv
/product AS /account mydomain\AgentUser MyPassWd
```

   注意: インストール パッケージがコンフィギュレーション スクリプトと同じフォルダにある場合でも、インストール パッケージへの完全なパスを含める必要があります。

コンフィギュレーション スクリプトの構文の詳細については、「コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ 『25ページ 』」を参照してください。

これで、エージェントのインストール パッケージを配置する準備が整いました。 ここで、グループ ポリシー オブジェクトを作成する必要があります。「グループ ポリシー オブジェクトの設定 『29ページ 』」を参照してください。

2.5.2 グループ ポリシー オブジェクトの設定

ドメイン全体またはドメインの組織単位にエージェント配置用のグループ ポリシー オブジェクト（GPO）を設定する手順は、次のとおりです。 エージェントは、ドメインまたは組織単位のメンバである各コンピュータで Windows が起動すると直ちにそのコンピュータインストールされます。

前提条件

- ドメイン管理者としてドメイン コントローラにログオンする。ドメインに複数のドメイン コントローラがあるときは、ドメイン管理者としていずれかのドメインにログオンします。

- ある組織単位へのエージェントの配置を計画している場合は、その組織単位がドメイン内に存在しているようにする。
- 「エージェントの配置の準備 『28ページ 』」で説明した手順を完了している。

手順 1: グループ ポリシー オブジェクトの作成

1. **[スタート]** メニューで、**[管理ツール]** をポイントし、**[Active Directory ユーザーとコンピュータ]**（Windows Server 2003）または **[グループ ポリシーの管理]**（Windows Server 2008）をクリックします。
2. Windows Server 2003 の場合:
   - ドメイン名または組織単位名を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。 ダイアログボックスで、**[グループ ポリシー]** タブをクリックし、**[新規]** をクリックします。

   Windows Server 2008 の場合:
   - ドメイン名または組織単位名を右クリックし、**[このドメインに GPO を作成し、このコンテナにリンクする]** をクリックします。
3. 新しいグループ ポリシー オブジェクトの名前（**Acronis Backup & Recovery 10 エージェント**など）を入力します。
4. Windows Server 2003 の場合:
   - **[編集]** をクリックします。

   Windows Server 2008 の場合:
   - **[グループ ポリシー オブジェクト]** で、作成したグループ ポリシー オブジェクトを右クリックし、**[編集]** をクリックします。

[グループ ポリシー オブジェクト エディタ] スナップインが表示されます。

手順 2: グループ ポリシー オブジェクトの設定

1. **[グループ ポリシー オブジェクト エディタ]** スナップインで、**[コンピュータの構成]**、**[ソフトウェアの設定]** の順に展開します。
2. **[ソフトウェア インストール]** を右クリックし、**[新規作成]** をポイントし、**[パッケージ]** をクリックします。
3. 以前に作成した共有フォルダにあるエージェントのインストール パッケージを選択し、**[開く]** をクリックします。
4. **[ソフトウェアの展開]** ダイアログボックスで、**[詳細設定]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。
5. エージェントを再インストールまたは更新する場合は、この手順をスキップしてください。

   エージェントをインストールする場合は、**[変更]** タブで **[追加]** をクリックし、以前に作成したトランスフォームを選択します。トランスフォーム ファイルは、**AcronisAgentWindows.mst** という名前で、エージェントのインストール パッケージと同じフォルダにあります。
6. **[OK]** をクリックして、**[ソフトウェアの展開]** ダイアログボックスを閉じます。
7. Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication や Acronis Backup & Recovery 10 Universal Restore をインストールする場合は、適切なインストール パッケージに対して次の操作を実行します。
   a. **[ソフトウェア インストール]** を右クリックし、**[新規作成]** をポイントし、**[パッケージ]** をクリックします。
   b. 共有フォルダにあるインストール パッケージを選択し、**[開く]** をクリックします。
   c. **[ソフトウェアの展開]** ダイアログボックスで、**[割り当て]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。

Copyright © Acronis, Inc.

2.6 Linux でのインストール

ここでは、Linux を実行しているコンピュータに Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントをインストールする方法について説明します。

コマンドライン パラメータを使用すると、無人インストール モードで製品をインストールできます。

2.6.1 準備

RPM パッケージ マネージャがシステムにインストールされていることを確認してください。 RPM を使用していない Linux ディストリビューション（Ubuntu など）に製品をインストールする場合は、インストールの前に、ルート ユーザーとして次のコマンドを実行するなどして RPM を手動でインストールする必要があります。

```
apt-get install rpm
```

RPM をインストール済みの Linux ディストリビューションは、Red Hat Enterprise Linux、Fedora、SUSE Linux Enterprise Server などがあります。

インストールを続行する前に、インストール ファイルを取り出して、必要なアクセス許可を割り当てる必要があります。

1. Linux を実行しているコンピュータで、Acronis Backup & Recovery 10 のセットアップ ファイルを実行します。
2. **[インストール ファイルの取り出し]** をクリックします。
3. インストール ファイルの一覧で、次のチェックボックスをオンにします。
   - **[エージェント for Linux]（AcronisAgentLinux.i686）**
   - **[ブータブル メディア ビルダ]（AcronisBootableComponentsMediaBuilderLinux.i686）**
   - **[管理コンソール]（AcronisManagementConsoleLinux.i686）**
   - **[重複除外]（AcronisDeduplication.i686）**
   - **[アップグレード ツール]（AcronisUpgradeToolLinux.i686）**

   注意: Acronis True Image Echo からアップグレードする場合にのみ、Acronis Backup & Recovery 10 アップグレード ツールが必要です。
4. コンポーネントをインストールするコンピュータのディレクトリにインストール ファイル（.i686 ファイル）をコピーします。
5. インストール ファイルをコピーしたディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

   ```
   chmod 777 Acronis*.i686
   ```

2.6.2 対話型モードでのインストール

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux または Acronis ブータブル メディア ビルダをインストールする手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux のライセンスが Acronis ライセンス サーバーにインポートされていることを確認します。
2. インストール ファイルを実行します。
   - Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux: **AcronisAgentLinux.i686**
   - Acronis ブータブル メディア ビルダ: **AcronisBootableComponentsMediaBuilder.i686**

3. DNS 名または IP アドレスを入力するか、ライセンス サーバーの自動検索を選択することにより、ライセンス サーバーを指定します。 または、Acronis Backup & Recovery 10 のライセンス キーを入力します。
4. エージェント for Linux をインストールする場合は、管理サーバーにコンピュータを登録するかどうかを指定します。 後で、コンピュータの名前または IP アドレスを使用して、コンピュータを管理サーバーに追加することもできます。
5. Linux カーネル用に SnapAPI モジュールをコンパイルするかどうかの確認が求められます。 **[続行]** を選択してすぐにモジュールをコンパイルするか（推奨）、**[スキップ]** を選択して後から手動でコンパイルします。

注意: Linux ディストリビューションに必要なモジュールをセットアップ プログラムでコンパイルできなかった場合、またはモジュールを後から手動でコンパイルすることを選択した場合は、**/usr/lib/Acronis/BackupAndRecovery/HOWTO.INSTALL** ファイルを参照してください。

Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication をインストールする手順は、次のとおりです。

注意: Acronis Backup & Recovery 10 の製品版を使用している場合にのみ、このコンポーネントをインストールする必要があります。 試用版を使用している場合は、このコンポーネントをインストールせずに重複除外を使用できます。

1. Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux と Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication の両方のライセンスが Acronis ライセンス サーバーにインポートされていることを確認します。
2. Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux をインストールした後に、インストール ファイル **AcronisDeduplication.i686** を実行します。
3. DNS 名または IP アドレスを入力するか、ライセンス サーバーの自動検索を選択することにより、ライセンス サーバーを指定します。
4. 画面の指示に従います。

Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールまたは Acronis Backup & Recovery 10 アップグレード ツールをインストールする手順は、次のとおりです。

1. インストール ファイルを実行します。
   - Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソール: **AcronisManagementConsoleLinux.i686**
   - Acronis Backup & Recovery 10 アップグレード ツール: **AcronisUpgradeTool.i686**
2. 画面の指示に従います。

2.6.3 無人モードでのインストール

確認を求められない無人モードでコンポーネントをインストールするには、コンポーネントのインストール ファイルを **-a** コマンドライン パラメータで実行します。 場合によっては、他のパラメータ 『33ページ 』を使用してインストールの実行方法を指定する必要があります。

無人インストールの 2 つの例を次に示します。

例 1: ライセンス キーを指定した無人インストール。 この例は、スタンドアロン エディションと、試用版のライセンス キーを使用している アドバンスト エディション に適用されます。

 Copyright © Acronis, Inc.

次のコマンドは、ライセンス キー 12345-67890-ABCDE を使用して、無人モード(確認を求められません)で Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux をインストールします。

```
./AcronisAgentLinux.i686 -a -i BackupAndRecoveryAgent -l 12345-67890-ABCDE
```

注意: スタンドアロン エディションでは、ファイル名は AcronisAgentLinux.i686 ではなく AcronisBackupRecoveryServerLinux.i686 です。

例 2: ライセンス サーバーを指定した無人インストール。 この例は、製品版のライセンス キーを使用している アドバンスト エディション に適用されます。

コマンドの例:

- このコマンドは、Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux を無人モードでインストールします。
- コンピュータ **licensesrv** 上にある Acronis ライセンス サーバーと、Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server エディションのライセンス キーを使用します。
- インストールが完了したら、コンピュータ **managementsrv** 上にある Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーにコンピュータを登録します。

  ```
  ./AcronisAgentLinux.i686 -a -i BackupAndRecoveryAgent -L licensesrv -P AS -C
  managementsrv -g srvadmin -w PassWd123
  ```

2.6.4 コマンドライン パラメータ

次のいずれかのインストール ファイルを実行する場合

- **AcronisAgentLinux.i686** (Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux)
- **AcronisBootableComponentsMediaBuilderLinux.i686**(Acronis Backup & Recovery 10 ブータブル コンポーネントおよびメディア ビルダ)
- **AcronisManagementConsoleLinux.i686**(Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソール)
- **AcronisDeduplication.i686**(Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication)
- **AcronisUpgradeTool.i686**(Acronis Backup & Recovery 10 アップグレード ツール)

1 つ以上のコマンドライン パラメータを指定できます。

パラメータ

特に説明しない限り、パラメータはすべてのインストール ファイルで指定できます。

-a または **--auto**

デフォルトの対話型モードではなく、いわゆる無人セットアップ モードでインストールを実行します。

セットアップ プログラムは、ライセンス キーの入力や **[次へ]** のクリックなどのユーザーによる操作を要求せずに続行されます。

このパラメータを使用する場合は、**-i** パラメータを使用して、インストールするコンポーネントを指定する必要があります。

インストール ファイル AcronisAgentLinux.i686 または AcronisBootableComponentsMediaBuilderLinux.i686 を実行するときにこのパラメータを使用する場合は、ライセンス サーバーまたはライセンス キーをそれぞれ **-L** または **-l** パラメータを使用して指定する必要があります。

SnapAPI モジュールのコンパイルが必要で、コンパイルが可能な場合は、セットアップ プログラムは自動的にモジュールをコンパイルします。それ以外の場合は、コンパイルをスキップします。

-n または **--nodeps**

無人セットアップ中の依存関係を無視します。 このオプションは無人セットアップ モードでのみ有効です（上記のパラメータ **-a** を参照）。

-u または **--uninstall**

コンポーネントをアンインストールします。 ライセンス キーまたはライセンス サーバーを指定する必要はありません。

-d または **--debug**

インストール ログに詳細な情報を書き込みます。

-i ComponentName または **--id=**ComponentName

インストールするコンポーネント名を指定します。

インストール ファイル AcronisAgentLinux.i686 の場合: **BackupAndRecoveryAgent**

インストール ファイル AcronisBootableComponentsMediaBuilderLinux.i686 の場合: **BackupAndRecoveryBootableComponents**

インストール ファイル AcronisManagementConsoleLinux.i686 の場合: **ManagementConsole**

インストール ファイル AcronisDeduplication.i686 の場合: **Deduplication**

インストール ファイル AcronisUpgradeTool.i686 の場合: **AcronisUpgradeTool**

-e {**0**|**1**} または **--ssl=**{**0**|**1**}

インストール ファイル AcronisAgentLinux.i686 にのみ適用されます。

他のコンポーネントに接続するための認証を有効にするかどうかを指定します。 認証は、SSL（Secure Socket Layer）証明書を使用して実行されます。

次の値を指定できます。

0: 認証を使用しない

1: 認証を使用する

-C ManagementServer または **--ams=**ManagementServer

インストール ファイル AcronisAgentLinux.i686 にのみ適用されます。

Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーの名前または IP アドレスを指定します。

このパラメータを使用するときは、管理サーバー管理者のユーザー名とパスワードをそれぞれ **-g** および **-w** パラメータを使用して指定する必要があります。

インストールの完了後、コンピュータは自動的に管理サーバーに登録されます。

-g UserName または **--login=**UserName

インストール ファイル AcronisAgentLinux.i686 にのみ適用されます。

ManagementServer で指定した管理サーバー上にある **Acronis Centralized Admins** グループのメンバのユーザー名を指定します。

-w Password または **--password=**Password

インストール ファイル AcronisAgentLinux.i686 にのみ適用されます。

UserName で指定した名前のユーザーのパスワードを指定します。

 Copyright © Acronis, Inc.

-p PortNumber または **--port=**PortNumber

インストール ファイル AcronisAgentLinux.i686 にのみ適用されます。

他の Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントへの接続に使用する TCP ポートの番号を指定します。 デフォルトのポート番号は 9876 です。

-l LicenseKey または **--serial=**LicenseKey

インストール ファイル AcronisAgentLinux.i686 および AcronisBootableComponentsMediaBuilderLinux.i686 にのみ適用されます。

コンポーネントのライセンス キーを指定します。 このパラメータまたは **-L** パラメータのいずれかを使用します。

-L LicenseServer または **--license-server=**LicenseServer

インストール ファイル AcronisAgentLinux.i686、AcronisDeduplication.i686、および AcronisBootableComponentsMediaBuilderLinux.i686 にのみ適用されます。

Acronis ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを指定します。 このパラメータまたは **-l** パラメータのいずれかを使用します。

このパラメータを使用するときは、**-P** パラメータを使用して、Acronis Backup & Recovery 10 のエディションのコードを指定する必要があります。

-P ProductAlias

インストール ファイル AcronisAgentLinux.i686、AcronisDeduplication.i686、および AcronisBootableComponentsMediaBuilderLinux.i686 にのみ適用されます。

Acronis Backup & Recovery 10 のエディションのコード(製品エイリアスとも呼ばれます)を指定します。コードは次のとおりです。

AcronisAgentLinux.i686 および AcronisBootableComponentsMediaBuilderLinux.i686 の場合:

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server: **AS**

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server Virtual Edition: **VE**

AcronisDeduplication.i686 の場合:

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server: **DUPAS**

Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server Virtual Edition: **DUPVE**

-v または **--version**

製品のバージョンを表示して終了します。

-? または **--help**

ヘルプを表示して終了します。

--usage

使用法に関する簡単なメッセージを表示して終了します。

2.7 エージェント for ESX/ESXi のインストール

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for ESX/ESXi は、仮想アプライアンスとして提供されます。 このコンポーネントにより、仮想コンピュータにエージェントをインストールしなくても、VMware ESX Server でホストされている仮想コンピュータのバックアップおよび復元を行うことができます。

Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーには、複数の ESX または ESXi サーバーにエージェント for ESX/ESXi を簡単に展開できる方法が用意されています。 このセクションで後述するように別の手順もありますが、通常はこの方法を使用します。
コンソールを管理サーバーに接続します。 **[ナビゲーション]** ツリーで、**[仮想コンピュータ]** を右クリックして **[Deploy ESX agent]**（ESX エージェントを展開）をクリックします。 手順の詳細については、コンテキスト ヘルプをご参照ください。

2.7.1 ESX/ESXi 仮想アプライアンスのインストール

手順 1: 仮想アプライアンスのファイルの取り出し

1. Windows を実行しているコンピュータで、Acronis Backup & Recovery 10 セットアップ プログラムを起動します。
2. **[インストール ファイルの取り出し]** をクリックします。 インストール パッケージの一覧で、**[ESX/ESXi Virtual Appliance エージェント（AcronisVirtualAppliance.msi）]** チェックボックスをオンにします。

   ヒント: または、**[Acronis Backup & Recovery 10 のインストール]** をクリックし、コンポーネントの一覧で **[ESX/ESXi Virtual Appliance エージェント]** チェックボックスを選択します。

3. **[取り出し先]** に、仮想アプライアンスのインストール パッケージを取り出すフォルダを指定し、**[取り出し]** をクリックします。
4. インストール パッケージを実行します。

インストールが完了すると、仮想アプライアンスのファイルはフォルダ %ProgramFiles%\Acronis\ESXAppliance に置かれます。

手順 2: 仮想アプライアンスのインポート

VMware Infrastructure 3.5 と VMware vSphere でのエージェントのインストールは似ています。 両製品の GUI コントロールが異なる名称になっているため、ここでは両方の手順を説明します。

VMware Infrastructure 3.5 へのエージェント仮想アプライアンスのインストール

1. VMware Infrastructure クライアントを起動し、VMware ESX サーバーにログインします。
2. **[File]** メニューの**[Virtual Appliance]** をポイントし、**[Import]** をクリックします。 **Import Virtual Appliance** ウィザードに従います。
3. **[Import Location]**（インポート場所）で **[Import from file]**（ファイルからインポート）を選択して、仮想アプライアンスの OVF パッケージのパスを指定します。通常、このパスは、%ProgramFiles%\Acronis\ESXAppliance です。
4. **[Virtual Appliance Details]** を確認して、**[Next]** をクリックします。
5. **[Name and Location]**（名前と場所）に、アプライアンスの名前を入力するか、デフォルト名 **AcronisESXAppliance のままにします。**
6. **[Datastore]** で、仮想アプライアンス用の領域が不足している場合を除き、デフォルトのデータストアのままにします。 領域が不足している場合には、別のデータストアを選択します。 サーバーにあるデータストアが 1 つだけの場合は、この手順をスキップします。
7. 概要を確認して、**[Finish]** をクリックします。 インポートの正常終了が報告されたら、進行状況のウィンドウを閉じます。

Copyright © Acronis, Inc.

VMware vSphere 4 へのエージェント OVF テンプレートのインポート

1. VMware vSphere クライアントを起動し、VMware ESX サーバーにログインします。
2. **[File]** メニューで**[Deploy OVF Template]** をポイントします。 **Deploy OVF Template** ウィザードに従います。
3. **[Source]**（ソース）で **[Deploy from File]**（ファイルから展開）を選択して、仮想アプライアンスの OVF パッケージのパスを指定します。通常、このパスは、%ProgramFiles%\Acronis\ESXAppliance です。
4. **[OVF Template Details]** を確認して、**[Next]** をクリックします。
5. **[Name and Location]**（名前と場所）に、アプライアンスの名前を入力するか、デフォルト名 **AcronisESXAppliance** のままにします。
6. **[Datastore]** で、仮想アプライアンス用の領域が不足している場合を除き、デフォルトのデータストアのままにします。 領域が不足している場合には、別のデータストアを選択します。 サーバーにあるデータストアが 1 つだけの場合は、この手順をスキップします。
7. 概要を確認して、**[Finish]** をクリックします。 配置の正常終了が報告されたら、進行状況のウィンドウを閉じます。

手順 3: 仮想アプライアンスの設定

1. **仮想アプライアンスの起動**

   VMware Infrastructure クライアントで、**[Inventory]** を表示し、仮想アプライアンスの名前を右クリックして、**[Power On]** をクリックします。

   [Console] タブをクリックします。 仮想アプライアンスの Welcome 画面に次の操作の指示が表示されます。 **[Close]** をクリックします。 この画面には、仮想アプライアンス GUI でヘルプ ボタンをクリックするといつでもアクセスできます。

   Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for ESX/ESXi の画面が表示されます。ここで、エージェントの構成を続けます。

2. **タイム ゾーン**

   [仮想コンピュータ] の下の**[タイム ゾーン]** で**[変更]** をクリックし、管理コンソールがインストールされている場所のタイム ゾーンを選択します。

   ESX サーバーは常に、GMT タイム ゾーンで動作します。 仮想アプライアンスは ESX サーバーにインポートされるときに、ESX サーバーの GMT タイム ゾーンを継承します。 コンソールが別のタイム ゾーンで動作している場合、コンソールを使用してスケジュールしたタスクが適切な時刻に実行されるように、仮想アプライアンスをコンソールと同期させる必要があります。

3. **ESX（i)/vCenter**

   [エージェント オプション] の下の **[ESX（i)/vCenter]** で **[変更]** をクリックし、バックアップとリカバリを行う仮想コンピュータがある VMware ESX/ESXi サーバーの名前または IP アドレス、およびそのサーバーにログインするためのユーザー名とパスワードを指定します。 **[接続の確認]** をクリックすると、このログイン情報が正しいかどうかを確認できます。

   ESX/ESXi サーバーが vCenter Server で管理されている場合は、vCenter Server の名前と IP アドレスを指定します。 仮想アプライアンスは vCenter Server を使用して、専用のホスト上にホストされている仮想コンピュータをバックアップおよびリカバリします。

   別のエージェント for ESX/ESXi が同じホストを管理していないことを確認してください。 2 つのエージェントが 1 つの仮想コンピュータを同時にバックアップしようとすると、スナップショットの競合が発生します。 この結果、このコンピュータをバックアップできなくなります。

   ライセンス サーバー

[ライセンス] の下の**[ライセンスの入力]** をクリックします。

試用版製品をインストールする場合は、**[次の試用版のライセンス キーを使用する]** を選択して、試用版のライセンス キーを入力します。 試用版では、重複除外は常に有効となります。

製品版をインストールする場合は、**[次の Acronis ライセンス サーバーにあるライセンスを使用する]** を選択して、ライセンス サーバーが動作してるコンピュータの名前または IP アドレスを指定します。 バックアップの重複除外を行うには、エージェントに別売の Deduplication ライセンスが必要となります。 このライセンスをライセンス サーバーにインポートしてある場合は、**[重複除外を有効にする...]** チェックボックスを選択して、エージェントにこのライセンスを取得させることができます。 **[OK]** をクリックすると、エージェントはライセンス サーバーに接続してライセンスを取得します。

製品のオンライン バックアップ機能のみをインストールする場合は、**[オンライン バックアップ専用（ライセンス キー不要）]** を選択します。 このオプションは、初回のバックアップまでに Acronis Backup & Recovery Online サービスへのサブスクリプションをすでに所有しているか、またはこれから取得することを前提としています。

これで仮想アプライアンスを動作させる準備が整いました。 さらに、ネットワークの設定も変更できます。

ネットワーク設定

エージェントのネットワーク接続は DHCP（Dinamic Host Configuration Protocol）を使用して自動的に設定されます。 デフォルトの構成を変更するには、**[エージェント オプション]** の下の**[eth0]** で**[変更]** をクリックして、必要なネットワーク設定を指定します。

（オプション）手順 4: 管理サーバーへの仮想アプライアンスの追加

ホストから仮想コンピュータをバックアップできるようにするための最小構成には、管理コンソール、ライセンス サーバー、およびエージェントが含まれます。 この構成では、コンソールとエージェントの直接接続を使用して、仮想コンピュータをバックアップおよびリカバリできます。 管理サーバーを使用する場合は、管理サーバー上で仮想アプライアンスを登録します。

仮想アプライアンスを管理サーバーに追加する手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールを起動します。
2. 仮想アプライアンス コンソールに表示される IP アドレスを使用し、管理コンソールを仮想アプライアンスに接続します。
3. トップ メニューから **[オプション]** → **[コンピュータ オプション]** → **[コンピュータの管理]** を選択します。
4. **[集中管理]** を選択し、管理サーバーの IP アドレスまたは名前を指定します。 **[OK]** をクリックします。
5. 管理サーバーの管理者アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。 **[OK]** をクリックします。

または、アプライアンスをサーバー側の管理サーバーに追加することもできます。

仮想アプライアンスが登録されると、仮想コンピュータの対応するグループが管理サーバーに表示されます。

2.7.2 ESX/ESXi 仮想アプライアンスの更新

管理サーバーからの更新

この更新方法は、管理サーバー上に登録されている仮想アプライアンスのみに使用できます。 この方法では、エージェントが管理している仮想コンピュータに関連するすべての構

Copyright © Acronis, Inc.

成設定（バックアップ計画、適用されたポリシーとグループ メンバシップ）が保持されるため、このセクションで後述する手動手順に適しています。

管理サーバーから仮想アプライアンスを更新するには、次の手順に従います。

1. 管理コンソールと管理サーバーを更新します。
2. コンソールを管理サーバーに接続します。
3. **ナビゲーション** ツリーで、vCenter サーバーと同じ名前のグループを右クリックします。 VMware vCenter 統合が有効になっていない場合は、**[仮想コンピュータ]** を右クリックします。
4. **[Deploy ESX agents]**（ESX エージェントを展開）をクリックします。
5. エージェント for ESX/ESXi を更新する vCenter のホストとクラスタを選択します。 VMware vCenter 統合が有効になっていない場合は、IP アドレスか名前を指定してホストを追加します。 エージェントが既にインストールされているすべてのホストまたはクラスタには、**[ESX Agent Deployment]**（ESX エージェントの展開）ウィンドウの右パネルに **[このホストの ESX エージェントを更新する]** と表示されます。
6. **[Deploy ESX agents]**（ESX エージェントを展開）をクリックします。

仮想アプライアンスが更新されます。エージェントの構成設定は保持されます。

手動更新

仮想アプライアンスの手動更新では、古いアプライアンスの削除と新しいアプライアンスのインストールを行います。

仮想アプライアンスを手動で更新したら、アプライアンスに存在するローカルのバックアップ計画を再度作成して、アプライアンスで管理されている仮想コンピュータ（つまり、仮想アプライアンスが管理している ESX/ESXi サーバーでホストされているコンピュータ）に適用されていたバックアップ ポリシーを再適用する必要があります。

仮想アプライアンス（VA）を手動で更新するには、次の手順に従います。

1. Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーから **VA を削除**します。 管理サーバーにアプライアンスが登録されていない場合は、この手順をスキップします。

   VA を削除するには、管理サーバーに接続して、**[すべての物理コンピュータ]** の一覧で VA を右クリックし、**[AMS からコンピュータを削除する]** をクリックします。 アプライアンスで管理していた仮想コンピュータに適用されているポリシーが取り消されます。
2. 「ライセンスの取り消し」の「Acronis ライセンス サーバーの使用 『15ページ 』」の手順に従って、VA で使用されていた**ライセンスを取り消します**。
3. ESX/ESXi サーバーから**仮想アプライアンス**を**削除** 『56ページ 』します。
4. 「ESX/ESXi 仮想アプライアンスのインストール 『36ページ 』」の手順に従って、**新しい VA をインストールして設定します**。
5. [オプション] VA に存在していたローカルのバックアップ計画を引き続き使用する場合は、**ローカルのバックアップ計画を再作成します**。
6. [オプション] 仮想アプライアンスで管理されている仮想コンピュータに直接適用されていた**バックアップ ポリシーを再度適用します**。 仮想コンピュータのダイナミック グループ（VA 登録アドレスと同じ名前のグループ）にもポリシーを再適用する必要があります。これは、このグループが VA の更新時に自動的に削除され、再作成されるためです。

   [すべての仮想コンピュータ] グループに適用されているポリシーは、仮想コンピュータに自動的に再展開されます。

7. [オプション] VA で管理されているコンピュータを**カスタム静的グループ**に再度追加します。

   静的グループでのコンピュータのメンバシップは失われます。これは、コンピュータが管理サーバーから削除され、VA の更新時に再度追加されるためです。

8. [オプション] **カスタム ダイナミック グループ**内の VA で管理されているコンピュータのメンバシップが再度確立されたことを確認します。

   ホスト/VA 条件を使用するダイナミック グループでのコンピュータのメンバシップは失われます。これは、更新時に VA が管理サーバーから削除されるためです。 このようなグループでのコンピュータのメンバシップを再度確立するには、更新された VA をグループの条件として指定します。

カスタム静的グループまたはカスタム ダイナミック グループにポリシーを再適用する必要はありません。 グループでのコンピュータのメンバシップが再確立されると直ちに、適切なポリシーが仮想コンピュータに自動的に再展開されます。

 Copyright © Acronis, Inc.

3 試用版から製品版へのアップグレード

Acronis Backup & Recovery 10 の試用版のインストールにライセンス サーバーは不要です。インストールに必要な試用版のライセンス キーは、Acronis Web サイトで入手できます。

Acronis Backup & Recovery 10 の試用版には、次のような制限事項があります。

- Universal Restore 機能は無効になっています。

ブータブル メディアに関するその他の制限事項は次のとおりです。

- ディスク管理機能を使用できますが、変更を適用するオプションはありません。
- ディスク管理以外では、復元機能のみを使用できます。

試用版から標準の製品にアップグレードするために、ソフトウェアを再ダウンロードする必要はありません。試用期間が終了すると、標準のライセンス キーを指定するように求める通知が製品の GUI に表示されます。

標準のライセンス キーを指定するには、管理コンソールの［**ライセンスの変更**］ウィンドウを使用するか、セットアップ プログラムを実行して指示に従います。

3.1 ライセンスの変更

ライセンスを変更することで、異なるバージョンまたはエディションの製品に切り替えます。次の表は、使用可能なオプションを示しています。

ライセンスの切り替え	切り替えが必要な理由
試用版 > 製品版	試用版から製品版にアップルグレードする。
試用版 > 試用版の異なるエディション	個々のニーズにより適したエディションを明確にする。
試用版 > 製品版の異なるエディション	購入したエディションが試用版のエディションとは異なる。

Acronis Deduplication や Acronis Universal Restore が切り替え先のバージョンやエディションで利用可能な場合は、追加のライセンスを使用することで、これらを有効にすることもできます。

アドバンスト エディション とスタンドアロン版の間で切り替えを行うことはできません。

アドバンスト エディション の製品版に切り替える前に

最初に、Acronis ライセンス サーバーに製品版のライセンス キーが追加（インポート)されたことを確認します。

製品の試用版では、**Acronis Deduplication** は常に有効となります。この機能を引き続き使用する場合は、次のことを行ってください。

1. Acronis Deduplication のライセンスを購入します。
2. Acronis Deduplication のライセンスをライセンス サーバーにインポートします。

3. Acronis Backup & Recovery 10 を製品版にアップグレードするすべてのコンピュータについて、Acronis Deduplication のライセンスを 1 つ使用します。

この操作は後からいつでも実行できますが、それまでは、重複除外格納域へのバックアップは失敗します。

アドバンスト エディション でライセンスを変更する手順は、次のとおりです。

1. 次のいずれかを実行します。
   - コンソールをコンピュータに接続して、［**ヘルプ**］→［**ライセンスの変更**］をクリックします。
   - コンソールを管理サーバーに接続し、［**すべての物理コンピュータ**］に移動するか、またはライセンスを変更しようとしているコンピュータが表示される別のグループに移動します。次に、目的のコンピュータを右クリックして、［**ライセンスの変更**］をクリックします。
2. 次のいずれかを実行します。
   - ライセンス サーバーを指定してから、切り替え先のエディションを選択します。ライセンス サーバーで、このエディション用の Acronis Deduplication または Acronis Universal Restore のライセンスが使用可能な場合、これらの各ライセンスを使用するかどうかを指定します。
   - 試用版のライセンス キーを入力します。

複数のコンピュータのライセンスを変更する場合は、リモート インストール機能を使用することをお勧めします。詳細については、インストール ガイドの「リモート インストール（Windows) 『22ページ 』」をご参照ください。

3.2 Windows 用コンポーネントのアップグレード

製品版にアップグレードする前に、Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server Virtual Edition 用のライセンス キーを Acronis ライセンス サーバーにインポートする必要があります。Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication を使用する予定の場合は、この機能のライセンス キーもインポートします。

製品版にアップルグレードする手順は、次のとおりです。

1. ライセンス キーがライセンス サーバーにインポートされていることを確認します。
2. セットアップ プログラムを開始します。
3. ［**次の Acronis ライセンス サーバーにあるライセンスを使用する**］をクリックして、ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを指定します。
4. 次のオプションからひとつを選択します。
   - 製品版にアップデートして、コンポーネントの追加または削除（Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication のインストールなど)を行う場合は、［**インストールを続行する**］をクリックします。

   注意: 重複除外機能は試用版で有効になっています。製品版でも継続して使用するには、Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication をインストールする必要があります。これには、別のライセンス キーが必要となります。

   - 製品版にアップグレードして、コンポーネントの追加または削除を行わない場合は、［**新しいライセンス キーを適用し、セットアップを終了する**］をクリックします。

   インストールされたコンポーネントも製品版にアップグレードされます。

Copyright © Acronis, Inc.

5. 最初のオプションを選択した場合は、コンポーネントの追加または削除の操作を行います。2 番目のオプションを選択した場合は、［**閉じる**］をクリックしてセットアップ プログラムを終了します。

3.3 Linux 用コンポーネントのアップグレード

製品版にアップグレードする前に、Acronis ライセンス サーバーに製品ライセンス キーをインポートする必要があります。Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication を使用する予定の場合は、この機能のライセンス キーもインポートします。

製品版のライセンス キーは、試用版のライセンス キーと同じ製品エディションのものである必要があります。

製品版にアップルグレードする手順は、次のとおりです。

1. 製品ライセンス キーがライセンス サーバーにインポートされていることを確認します。
2. インストール ファイルを実行します。
   - Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux の場合: **AcronisAgentLinux.i686**
   - Acronis ブータブル メディア ビルダの場合: **AcronisBootableComponentsMediaBuilder.i686**
3. ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを指定します。
4. アップグレードを続けます。

Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication のインストール

重複除外機能は試用版で有効になっています。製品版でも継続して使用するには、エージェント for Linux のアップグレード後に、Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication をインストールする必要があります。これには、別のライセンス キーが必要となります。

Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication をインストールする手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication のライセンス キーがライセンス サーバーにインポートされていることを確認します。
2. インストール ファイルを実行します。**AcronisDeduplication.i686**
3. ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを指定します。
4. インストールを続けます。

3.4 エージェント for ESX/ESXi のアップグレード

製品版にアップグレードする前に、Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server Virtual Edition 用のライセンス キーを Acronis ライセンス サーバーにインポートする必要があります。Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication を使用する予定の場合は、この機能のライセンス キーもインポートします。

製品版にアップルグレードする手順は、次のとおりです。

1. ライセンス キーがライセンス サーバーにインポートされていることを確認します。
2. ESX/ESXi 仮想アプライアンスで、［**ライセンス**］の下の［**ライセンスの入力**］をクリックします。
3. ［**次の Acronis ライセンス サーバーにあるライセンスを使用する**］をクリックして、ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを指定します。
4. 重複除外機能を有効にするには、［**重複除外を有効にする**］チェックボックスをオンにします。

4 Acronis Backup & Recovery 10 のアドバンスト エディションへのアップグレード

ここでは、Acronis True Image Echo の次のエディションをアップグレードする方法について説明します。

- **Acronis True Image Echo Enterprise Server** から **Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server**
- **Acronis True Image Echo Workstation** から **Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Workstation**
- **Acronis True Image Echo Virtual Edition** から **Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server Virtual Edition**
- **Acronis True Image for Microsoft Windows Small Business Server** から **Acronis Backup & Recovery 10 Advanced Server SBS Edition**

Acronis Backup & Recovery 10 の アドバンスト エディション には、Echo エージェントとローカル バージョンのアップグレードの前にインストールしておく必要がある Acronis ライセンス サーバーが含まれます。

Acronis Backup & Recovery 10 の アドバンスト エディション にローカル バージョンは含まれません。Acronis True Image Echo のローカル バージョンは、Acronis Backup & Recovery 10 エージェントにアップグレードされます。その後で Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールをローカル管理が必要なコンピュータにインストールできます。

4.1 アップグレードの前に

準備

1 台以上のコンピュータでアップグレードを行う前に、次の項目を確認します。

- Acronis ライセンス サーバーに、対応する Acronis True Image Echo Edition の適切な数のライセンス キーが含まれている。
- 各コンピュータの Acronis Backup & Recovery 10 のアップグレード ライセンス キーを保有している。これらのキーは、ライセンス サーバーのインストールまたはアップグレード後にインポートします。

アップグレードの順序

アップグレードは次の順序で実行することをお勧めします。

1. Acronis ライセンス サーバーをインストールまたはアップグレードする。「Acronis ライセンス サーバーのインストールまたはアップグレード 『45ページ 』」をご参照ください。
2. Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールをインストールする。「Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールのインストール 『45ページ 』」をご参照ください。
3. Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーをインストールし、Acronis グループ サーバーのグループ タスクを管理サーバーのバックアップ ポリシーに変換する。「Acronis グループ サーバーから Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーへのアップグレード 『46ページ 』」をご参照ください。

 Copyright © Acronis, Inc.

4. Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードをインストールし、Acronis バックアップ サーバーのバックアップ ロケーションをストレージ ノードの集中管理用格納域に変換する。「Acronis バックアップ サーバーから Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードへのアップグレード 『47ページ 』」をご参照ください。
5. Acronis True Image Echo エージェントおよびローカル バージョンをアップグレードし、ローカル タスクとバックアップ ロケーションをインポートする。「Acronis True Image Echo エージェントおよびローカル バージョンのアップグレード 『48ページ 』」をご参照ください。

4.2 Acronis ライセンス サーバーのインストールまたはアップグレード

以前のバージョンのライセンス サーバーが既にインストールされている場合は、同じコンピュータに新しいライセンス サーバーをインストールすることによってアップグレードします。この場合、アップグレードしたライセンス サーバー上には古いライセンス キーが存在することになります。これまでライセンス サーバーを使用していなかった場合は、新しくインストールしたライセンス サーバーに古いライセンス キーとアップグレード ライセンス キーの両方をインポートします。

ライセンス サーバーをインストールまたはアップグレードする手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 10 セットアップ ファイルを実行します。
2. ［**Acronis ライセンス サーバーのインストール**］をクリックし、画面の指示に従います。
3. Acronis Backup & Recovery 10 のアップグレード ライセンス キーをインポートします。
4. これまでライセンス サーバーを使用していなかった場合は、古いライセンス キーをインポートします。

結果:

- ライセンス サーバーには、古いライセンス キーと新しくインポートしたアップグレード ライセンス キーが含まれます。

4.3 Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールのインストール

Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールは、Acronis True Image Echo 管理コンソールと同じコンピュータまたは別のコンピュータにインストールできます。いずれの場合も、インフラストラクチャにまだ存在している場合は、Acronis True Image Echo 管理コンソールと Acronis True Image Echo コンポーネントを継続して使用できます。

Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールをインストールする手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 10 セットアップ ファイルを実行します。
2. コンポーネントの一覧で、［**管理コンソール**］チェックボックスをオンにします。
3. 画面の指示に従います。

結果:

- Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールがインストールされます。
- Acronis True Image Echo 管理コンソールと Acronis True Image Echo コンポーネントを継続して使用できます。

4.4 Acronis グループ サーバーの Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーへのアップグレード

Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーは、Acronis グループ サーバーと同じコンピュータまたは別のコンピュータにインストールできます。

管理サーバーとグループ サーバーは、互いに独立しています。グループ サーバーを使用する予定がない場合は、いつでもアンインストールできます。アンインストールは、管理サーバーをインストールする前でも可能です。 それ以外の場合、インフラストラクチャに Acronis True Image Echo コンポーネントが存在している場合は、それらと共にグループ サーバーを引き続き使用することができます。

インストール中、または管理サーバーをインストール後は、グループ サーバーのグループ タスクを管理サーバーのバックアップ ポリシーに変換できます。 グループ サーバーのアンインストール後でも、グループ タスクを変換することができます。

注: Acronis バックアップ サーバーにデータをバックアップするタスク、またはそこに保存されているアーカイブをベリファイするタスクは、管理サーバーにインポートされません。

管理サーバーをインストールする手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 10 のセットアップ ファイルを実行します。
2. インストールするコンポーネントの一覧で、**[管理サーバー]** チェックボックスをオンにします。 グループ タスクの変換が必要とされる場合は、**アップグレード ツール**をインストールするように選択します。
3. インストール中にグループ タスクを変換する場合は、**[グループ タスクをバックアップ ポリシーに変換]** チェックボックスをオンにします。 指定しない場合でも、タスクは後からいつでも変換できます。詳細は、この後の「アップグレード ツールを使用したグループ タスクの変換」をご参照ください。
4. 画面の指示に従います。

アップグレード ツールを使用したグループ タスクの変換

グループ サーバーのグループ タスクを変換する手順は、次のとおりです。

1. 管理サーバーがインストールされているコンピュータに、Administrators グループのメンバとしてログオンします。
2. 現在のフォルダをアップグレード ツールがデフォルトでインストールされているフォルダに変更します（デフォルトは、**C:\Program Files\Acronis\UpgradeTool**）。

   Acronis Backup & Recovery 10 がデフォルトのフォルダ以外のフォルダにインストールされている場合は、これに従ってパスを変更します。
3. グループ サーバーと管理サーバーが同じコンピュータにインストールされている場合、次のコマンドを実行します（大文字/小文字に注意してください）。

   ```
   cscript UpgradeTool.vbs GS [-r]
   ```

   （オプションのパラメータ **-r** については、後で説明します）。 それ以外の場合は、次のコマンドを実行します。

   ```
   cscript UpgradeTool.vbs GS MachineName -u UserName [-p Password] [-r]
   ```

   パラメータの説明:

   MachineName

   グループ サーバーがインストールされているコンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

   -u UserName

Copyright © Acronis, Inc.

MachineName コンピュータの Administrators グループのメンバのユーザー名を指定します。

-p Password

UserName ユーザーのパスワードを指定します。 このパラメータをスキップすると、アップグレード ツールはパスワードの入力を求めます。

-r

コンピュータのタスクのアップグレードを計画している場合にのみ有効です。「Acronis True Image Echo エージェントとローカル バージョンのアップグレード 『48 ページ 』」をご参照ください。

このパラメータは、コンピュータのグループ タスクのアップグレードによって生成されるローカル バックアップ計画が集中管理されたバックアップ計画に変換されることを抑止します。 このパラメータを指定すると、コンピュータのグループ タスクのアップグレードによって生成されるローカル バックアップ計画は、コンピュータが管理サーバーに登録された後もローカルのままになります。 それ以外の場合は、管理サーバーはそれらを集中管理されたバックアップ計画に変換し、集中管理用計画とグループ タスクのアップグレードから生成されたポリシーとの間の通信を確立します。

結果:

- インポートされたグループ タスクは管理サーバーのバックアップ ポリシーになり、**[バックアップ ポリシー]** ビューに表示されます。
- (**-r** パラメータを指定しなかった場合、コンピュータのタスクをアップグレードした後に表示されます。)グループ タスクが当初適用されていたコンピュータが管理サーバーに登録されると、対応するバックアップ ポリシーがそのコンピュータに適用されます。

4.5 Acronis バックアップ サーバーの Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードへのアップグレード

Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードは、Acronis バックアップ サーバーと同じコンピュータまたは別のコンピュータにインストールできます。

バックアップ サーバーの場所をストレージ ノードの集中管理用格納域としてインポートする場合は、ストレージ ノードをバックアップ サーバーと同じコンピュータにインストールする必要があります。

バックアップ サーバーの場所を集中管理用格納域としてインポートすると、そこに保存されている Acronis True Image Echo アーカイブへのアクセスが容易になります。 この格納域に Acronis Backup & Recovery 10 のアーカイブを作成することはできません。

Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードをインストールする手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 10 セットアップ ファイルを実行します。
2. インストールするコンポーネントの一覧で、**[ストレージ ノード]** チェックボックスをオンにします。
3. バックアップ サーバーの場所をインポートできるようにするには、**[アップグレード ツール]** チェックボックスをオンにします。
4. 画面の指示に従います。

バックアップ サーバーの場所をインポートする手順は、次のとおりです。

1. ストレージ ノードがインストールされているコンピュータに、Administrators グループのメンバとしてログインします。

2. 現在のフォルダをアップグレード ツールがデフォルトでインストールされているフォルダに変更します。 **C:\Program Files\Acronis\UpgradeTool**

   Acronis Backup & Recovery 10 がデフォルトのフォルダ以外のフォルダにインストールされている場合は、これに従ってパスを変更します。

3. 次のコマンドを実行します。

```
cscript UpgradeTool.vbs BS
```

結果:

- バックアップ サーバーのバックアップ場所が、ストレージ ノードの集中管理用格納域になります。
- ストレージ ノードが管理サーバーに登録されている場合、集中管理用格納域が [**格納域**] ビューの管理サーバーに表示されます。
- それぞれの集中管理用格納域は、バックアップの場所のフォルダに基づいて名前が付けられます。
- それぞれの集中管理用格納域には、対応するバックアップの場所に存在するすべてのアーカイブが表示されます。

バックアップ サーバーとストレージ ノードの共存

バックアップ サーバーとストレージ ノードの両方が同じコンピュータにインストールされて動作している環境で、バックアップ サーバーの場所をストレージ ノードの集中管理用格納域としてインポートしたとします。 この場合、

- バックアップ サーバーはこれまでと同様に動作を継続します。 Acronis True Image Echo コンポーネントは、その場所からデータをバックアップして復元できます。バックアップ サーバーは、クォータと期限に基づいてその場所をクリーンアップします。
- ストレージ ノードは、対応する集中管理用格納域に読み取り専用モードでアクセスします。 格納域の内容を表示し、アーカイブからデータを復元できますが、格納域からアーカイブを削除することはできません。

コンピュータを再起動したり、サービスを手動で再起動するときは、バックアップ サーバー サービスをストレージ ノード サービスよりも先に開始してください。 そうしないと、バックアップ サーバーが動作しないことがあります。

サービスが正しい順序で開始されるようにするために、ストレージ ノード サービスをバックアップ サーバー サービスの依存サービスにすることができます。詳細については、対応する Microsoft のヘルプとサポートの記事 http://support.microsoft.com/kb/193888 を参照してください。

4.6 Acronis True Image Echo エージェントとローカル バージョンのアップグレード

エージェントのインストール

Acronis True Image Echo エージェントとローカル バージョンをアップグレードするには、古いエージェントとローカル バージョンがインストールされているコンピュータに Acronis Backup & Recovery 10 エージェントをインストールします。

Windows:

1. Acronis Backup & Recovery 10 セットアップ ファイルを実行します。

Copyright © Acronis, Inc.

2. Acronis ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを指定します。
3. コンポーネントの一覧で、インストールするコンポーネントを選択します。コンピュータでローカル管理が必要な場合、エージェントと共に Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールをインストールします。古いタスクをアップグレードできるようにするには、**[アップグレード ツール]** チェックボックスをオンにします。
4. 現在インストールされているエージェントまたはローカル バージョンが削除されていることを確認します。インストール時に古いタスクをアップグレードする場合は、**[既存のタスクをインポートする]** チェックボックスをオンにします。または、タスクは後からいつでもインポートできます。詳細については、この後の「タスクのアップグレード」をご参照ください。
5. 画面の指示に従います。詳細については、「ローカル インストール（Windows) 『18ページ 』」をご参照ください。

ローカル インストールの代わりに、Acronis Backup & Recovery 10 エージェントをリモートでインストールするか、グループ ポリシーを使用してインストールすることができます。詳細については、「リモート インストール（Windows) 『22ページ 』」と「グループ ポリシーを使用したコンポーネントのインストール 『28ページ 』」をご参照ください。

注意: コンソールのリモート インストール機能を使用して Acronis True Image Echo エージェントをアップグレードするには、操作するコンピュータ上に Acronis True Image Echo または Acronis Backup & Recovery 10 エージェントのいずれかが必要です。それ以外の場合は、少なくともライセンス サーバー上でアップグレードではなく製品版のライセンスが使用できる（未使用など)必要があります。対象となるのは、Acronis True Image Echo または Acronis Backup & Recovery 10 のいずれかのエディションのライセンスです。このライセンスは、アップグレード後も使用することができます。

Linux:

1. Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Linux とアップグレード ツールを「インストール手順 『31ページ 』」の内容に従ってインストールします。
2. コンピュータでローカル管理が必要な場合、Acronis Backup & Recovery 10 管理コンソールをインストールします。

結果:

- Acronis True Image Echo エージェントとローカル バージョンは、Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントに置き換えられます。

タスクのアップグレード

古いバックアップ タスクとベリファイ タスクを Acronis Backup & Recovery 10 にインポートすることが必要になる場合があります。これらのタスクをインポートしない場合、タスクは実行されません。

注意: Acronis バックアップ サーバーにデータをバックアップするタスク、またはそこに保存されているアーカイブをベリファイするタスクは、Acronis Backup & Recovery 10 にインポートされません。

古いタスクは、エージェントのインストール時（前述のインストール手順をご参照ください)、または後から Acronis Backup & Recovery 10 アップグレード ツールを使用してインポートできます。このコマンドライン ユーティリティは、Acronis Backup & Recovery 10 インストール ディレクトリの UpgradeTool サブディレクトリにあります。

Windows:

1. 現在のフォルダをアップグレード ツールがデフォルトでインストールされているフォルダに変更します。**C:\Program Files\Acronis\UpgradeTool**

   Acronis Backup & Recovery 10 がデフォルトのフォルダ以外のフォルダにインストールされている場合は、これに従ってパスを変更します。
2. 次のコマンドを実行します（大文字/小文字に注意してください)。

```
cscript UpgradeTool.vbs Agent
```

Linux:

1. 現在のディレクトリを次のディレクトリに変更します。**/usr/lib/Acronis/UpgradeTool**
2. 次のコマンドを実行します。

```
UpgradeTool.sh Agent
```

結果:

- Acronis True Image Echo に存在していたタスクは Acronis Backup & Recovery 10 のタスクに変換され、**[バックアップの計画およびタスク]** ビューに表示されます。
- 各バックアップ タスクのスケジュール、バックアップする項目、およびバックアップの保存先は以前と同じですが、その後のバックアップを実行するためにタスクによって新しいアーカイブが作成されます。
- 各バックアップ タスクは、バックアップ計画の一部です。バックアップ計画を編集して、タスクのスケジュールまたはその他のパラメータを変更できます。
- タスクのログ エントリはインポートされません。

古いオプションのインポート

アップグレード ツールを使用すると、Acronis True Image Echo のデフォルトのバックアップ オプション、デフォルトの復元オプション、通知オプション、およびイベント トレース オプションを Acronis Backup & Recovery 10 のデフォルトのバックアップ オプションと復元オプションにインポートすることができます。

古いオプションをインポートする手順は、次のとおりです（Windows および Linux の両方)。

1. 現在のフォルダ（ディレクトリ)をアップグレード ツールがインストールされているフォルダに変更します。
2. Windows の場合は、次のコマンドを実行します。

```
cscript UpgradeTool.vbs Options
```

   Linux の場合は、次のコマンドを実行します。

```
./UpgradeTool.sh Options
```

古いオプションは次のようにインポートされます。

- **[通知]** は、デフォルトのバックアップ オプションおよびデフォルトの復元オプションに **[通知]** としてインポートされます。
- **[イベント トレース]** は、デフォルトのバックアップ オプションおよびデフォルトの復元オプションに **[イベント トレース]** としてインポートされます。
- **[アーカイブの分割]** は、**[バックアップの分割]** としてインポートされます。
- **[メディア コンポーネント]** で、**[Acronis ワンクリック リストアをメディアに配置する]** チェックボックスのみがオンになっている場合、**[Acronis ブータブル エージェントおよびワンクリック リストア]** としてインポートされます。

 Copyright © Acronis, Inc.

- **[作成完了時にバックアップ アーカイブをベリファイする]** は、**[その他の設定]** からデフォルトのバックアップ オプションまたはデフォルトの復元オプションにインポートされません。
- デフォルトの復元オプションには、**[復元から除外するファイル]**、**[ファイル上書きモード]**、および **[パスを復元せずにファイルやフォルダを復元する]**（**[その他の設定]**)はインポートされません。
- その他のオプションは、デフォルトのバックアップ オプションおよびデフォルトの復元オプションの対応するオプションにインポートされます。

Acronis True Image Echo によって作成されたバックアップ アーカイブの使用

Acronis Backup & Recovery 10 にアップグレードした後に、Acronis True Image Echo によって作成されたバックアップからデータを復元できます。

これらのバックアップに簡単にアクセスできるようにするには、バックアップを配置する個人用格納域を作成します。個人用格納域の作成方法については、ユーザーズ ガイドの「個人用格納域での操作」をご参照ください。

個人用格納域には、Acronis True Image Echo のアーカイブおよび Acronis Backup & Recovery 10 のアーカイブの両方を保存できます。この格納域は、新しいバックアップ計画の保存先として指定できます。

4.6.1 タスクのインポート

Acronis True Image Echo からタスクをまとめてインポートする代わりに、アップグレード ツールを使用して、特定のバックアップまたはベリファイ タスクをインポートできます。

注意: Acronis バックアップ サーバーにデータをバックアップするタスク、またはそこに保存されているアーカイブをベリファイするタスクはインポートできません。

Acronis True Image Echo は各タスクを .tis ファイルとして保存します。デフォルトでは、これらのファイルは **C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Acronis\TrueImage\Scripts** フォルダ（Windows の場合）、または **/etc/Acronis/TrueImage/Scripts** ディレクトリ（Linux の場合)に置かれます。

.tis ファイルの名前は、6AED5F49-7EED-4E3E-939E-19360A44137F.tib.tis のような、汎用一意識別子（UUID)です。各ファイルは XML 形式です。このファイルの **<display>** タグは、タスクの一覧に表示されるタスク名を指定します。

タスクをインポートする手順は、次のとおりです。

1. インポートするタスクのファイル名を特定します。たとえば、**<display>** タグの内容を調べます。
2. 現在のフォルダをアップグレード ツールがインストールされているフォルダに変更します。
3. 次のコマンドを実行し、タスクのファイル名を指定します。
   - Windows:

```
cscript UpgradeTool.vbs Script -f "C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Acronis\TrueImage\Scripts\6AED5F49-7EED-4E3E-939E-19360A44137F.tib.tis"
```

   - Linux:

```
./UpgradeTool.sh Script -f /etc/Acronis/TrueImage/Scripts/6AED5F49-7EED-4E3E-939E-19360A44137F.tib.tis"
```

実行の結果、タスクは Acronis Backup & Recovery 10 タスクとしてインポートされ、バックアップ計画の一部になります。

Copyright © Acronis, Inc.

5 Acronis Backup & Recovery 10 の アドバンスト エディション のアンインストール

ライセンスを使用しているコンポーネントをアンインストールすると、Acronis ライセンス サーバーによってコンピュータからライセンスが取り消されます。 アンインストール中にライセンス サーバーを使用できない場合は、後でライセンスを手動で取り消す 『15ページ』ことができます。

5.1 Windows でのローカル アンインストール

Acronis Backup & Recovery 10 のコンポーネントのアンインストール

重要: Acronis Backup & Recovery 10 のコンポーネントのアンインストールでは、Windows の **[プログラムの追加と削除]** ツールは使用しないでください。

Acronis Backup & Recovery 10 のすべてのコンポーネントをアンイストールする手順は、次のとおりです。

1. **[スタート]** → **[すべてのプログラム]** → **[Acronis]** → **[Acronis Backup & Recovery 10 のアンインストール]** の順に選択します。
2. 関連情報を削除する場合は（後述の「関連情報の削除」を参照）、**[製品のログ、タスク、格納域および構成の設定を削除する]** チェックボックスをオンにします。
3. **[削除]** をクリックします。

Acronis Backup & Recovery 10 のコンポーネントまたは機能を個別にアンイストールする手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 10 セットアップ プログラムを開始します。
2. **[Acronis Backup & Recovery 10 11 のインストール]** をクリックします。
3. Acronis ライセンス サーバーが使用可能な状態になっている必要があります。使用可能でない場合は、処理を続行できません。 ライセンスを使用しているコンポーネントをアンインストールすると、Acronis ライセンス サーバーによってコンピュータからライセンスが取り消されます。
4. **[変更]** をクリックします。
5. アンインストールするコンポーネントまたは機能の名前の横にあるチェックボックスをオフにします。
6. 関連情報を削除する場合は（後述の「関連情報の削除」を参照）、**[製品のログ、タスク、格納域および構成の設定を削除する]** チェックボックスをオンにします。

関連情報の削除

後でコンポーネントを再インストールする場合は、関連情報をそのまま保持します。

関連情報を削除する場合は、**[製品のログ、タスク、格納域および構成の設定を削除する]** チェックボックスをオンにします。オンにすると、次の情報が削除されます。

- Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows をアンインストールする場合: エージェントのログとタスク
- Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーをアンインストールする場合: ポリシー設定、処理のログ、および統計データを保存している管理サーバー データベース

- Acronis Backup & Recovery 10 ストレージ ノードをアンインストールする場合: ストレージ ノードのログとタスク

Acronis ライセンス サーバーのアンインストール

Acronis ライセンス サーバーは、他のアクロニス製品によって使用される可能性があるので、Acronis Backup & Recovery 10 とは別にアンインストールする必要があります。

Acronis ライセンス サーバーをアンインストールするには

1. Acronis Backup & Recovery 10 セットアップ プログラムを開始します。
2. **[Acronis ライセンス サーバーの修復/削除]** をクリックします。
3. **[削除]** をクリックします。

5.2 Windows での無人アンインストール

Acronis Backup & Recovery 10 のコンポーネントまたは機能を無人モードでアンインストールするには、**msiexec** ユーティリティを実行します。 このユーティリティでは、対応するインストール パッケージ（.msi ファイル）が使用されます。

ライセンスを使用しているコンポーネントをアンインストールすると、Acronis ライセンス サーバーが使用可能な場合、Acronis ライセンス サーバーによってコンピュータからライセンスが取り消されます。

コンポーネントまたは機能をアンインストールする手順は、次のとおりです。

1. 対応するインストール パッケージをフォルダまたはネットワーク共有に取り出します。
2. 次のコマンドを実行します（ここでは、インストール パッケージ AcronisAgentWindows.msi が \\myserver\share ネットワーク共有に保存されていると仮定します）。

```
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisAgentWindows.msi /qb
```

エージェントのアンインストール

Acronis Backup & Recovery 10 エージェント for Windows をアンインストールするときは、機能をアンインストールしてからエージェントをアンインストールすることをお勧めします。

たとえば、エージェントに**トレイ モニタ**機能と **Universal Restore** 機能がインストールされている場合は、次の順序でアンインストール コマンドを実行します。

```
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisTrayMonitor.msi /qb
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisUniversalRestore.msi /qb
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisAgentWindows.msi /qb
```

ライセンス サーバーのアンインストール

Acronis ライセンス サーバーをアンインストールする必要がある場合は、このサーバーを使用しているすべてのエージェントをアンインストールしてから、ライセンス サーバーをアンインストールしてください。 また、ライセンス サーバーは他の Acronis 製品によって使用されている場合もあります。

ライセンス サーバーをアンインストールするには、次のコマンドを実行します（必要に応じてパスを変更してください）。

```
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisLicenseServer.msi /qb
```


Copyright © Acronis, Inc.

5.3 Linux でのアンインストール

Acronis Backup & Recovery 10 のすべてのコンポーネントをアンインストールする手順は、次のとおりです。

root ユーザーとして、次の手順を実行します。

1. Acronis Backup & Recovery 10 Deduplication がインストールされている場合は、次のコマンドを実行します。

```
# cd /usr/lib/Acronis/BackupAndRecoveryDeduplication/uninstall
# ./uninstall
```

2. 次のコマンドを実行して、他の Acronis Backup & Recovery 10 コンポーネントをアンインストールします。

```
# cd /usr/lib/Acronis/BackupAndRecovery/uninstall
# ./uninstall
# cd /usr/lib/Acronis/BootableComponents/uninstall
# ./uninstall
# cd /usr/lib/Acronis/BackupAndRecoveryConsole/uninstall
# ./uninstall
# cd /usr/lib/Acronis/UpgradeTool/uninstall
# ./uninstall
```

3. 次のコマンドを実行して、SnapAPI モジュールのソース ファイルを削除します。

```
# rm -rf /usr/src/snapapi*
```

すべてのコンポーネントを無人モードでアンインストールするには、各 **./uninstall** コマンドに **-a** オプションを付けて実行します。

5.4 Acronis セキュア ゾーンの削除

Acronis Backup & Recovery 10 をアンインストールしても、Acronis セキュア ゾーンとその内容が影響を受けることはありません。 引き続き、ブータブル メディアから起動するときに Acronis セキュア ゾーンからデータをリカバリすることができます。

Acronis セキュア ゾーンを削除する必要がある場合は、エージェントをアンインストールする前に、オペレーティング システムまたはブータブル メディアで次の手順を実行します。

Acronis セキュア ゾーンを削除する手順は、次のとおりです。

1. **[Acronis セキュア ゾーンの操作]** バー（**[アクションとツール]** ペイン）で、**[削除]** を選択します。
2. **[Acronis セキュア ゾーンの削除]** ウィンドウで、セキュア ゾーンから解放される領域を追加するボリュームを選択し、**[OK]** をクリックします。

   複数のボリュームを選択した場合、領域は各パーティションのサイズに比例して分配されます。 ボリュームを選択しない場合は、空き領域は未割り当てになります。

[OK] をクリックすると、Acronis Backup & Recovery 10 によってゾーンの削除が開始されます。

5.5 ESX/ESXi 仮想アプライアンスの削除

Acronis Backup & Recovery 10 管理サーバーでは、複数の ESX または ESXi サーバーからエージェント for ESX/ESXi を簡単に削除できます。 このセクションで後述するように別の手順もありますが、通常はこの方法を使用します。
コンソールを管理サーバーに接続します。 **[ナビゲーション]** ツリーで、**[仮想コンピュータ]** を右クリックして **[ESX エージェントを削除]** をクリックします。 手順の詳細については、コンテキストヘルプをご参照ください。

次のような場合は、エージェント for ESX/ESXi 仮想アプライアンスを手動で削除する必要があります。

- 仮想アプライアンスが管理サーバーに登録されていない
- vCenter サーバーを使用していないか、vCenter サーバーとの統合が有効になっていない
- 仮想アプライアンスが破損している

エージェント for ESX/ESXi 仮想アプライアンス（VA）を手動で削除するには、次の手順に従います。

1. VMware Infrastructure/vSphere クライアントを起動し、ESX/ESXi ホストまたは vCenter サーバーにログインします。
2. VA の電源をオフにします。
3. VA を右クリックし、**[設定の編集]** を選択します。
4. VA に接続されているハードディスクが 4 台のみであることを確認します。

   5 台以上のハードディスクが接続されていると、ゲスト システムの一部のボリュームは VA からマウント解除されません。 VA のネイティブ ディスクには、1～4 の番号が割り当てられ、サイズは 5 GB または 1 MB のいずれかです。 次の手順に従って、非ネイティブ ディスクをマウント解除します。

   a. このディスクを選択し、**[削除]** をクリックします。
   b. **[仮想コンピュータから削除する]** オプションが選択されていることを確認します。

      2 番目のオプションの **[仮想コンピュータから削除してファイルをディスクから削除する]** は選択しないでください。 このオプションを選択すると、ディスクが VA だけでなくソースの仮想コンピュータからも削除されます。

   c. すべての非ネイティブ ディスクについて、手順 a と b を繰り返します。
   d. **[OK]** をクリックして、削除を確定します。
5. VA を右クリックして、**[ディスクから削除]** を選択します。
6. VA を管理サーバーから削除します。 アプライアンスが管理サーバーに登録されていない場合、またはすでに削除されている場合は、この手順をスキップします。

   VA を削除するには、管理サーバーに接続して、**[すべての物理コンピュータ]** の一覧で VA を右クリックし、**[AMS からコンピュータを削除する]** をクリックします。

ライセンス サーバー上の Virtual Edition のライセンスは、自動的に解放されません。 ライセンスを解放する必要がある場合は、**ライセンスの管理**ツールを使用して、このホストから手動で取り消します。

Copyright © Acronis, Inc.